新型インフルエンザ等対策に関する意識調査結果について

１．概要

（１）調査目的

新型インフルエンザ等対策室では、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成 24 年法律第 31 号）の施行、政府行動計画の閣議決定など体制整備を進めてきたところであるが、実際に発生した際の対策の運用方針等の検討に当っては、国民の理解を得ることが重要である。

発生時の詳細な対応においては、新型インフルエンザ等の病原性、ウイルスの特徴、流行の状況等を総合的に勘案し、対策を決定することとなるが、この対応についての検討における参考とするため、国民の意識を広く調査することを目的とする。

（２）調査概要

- アンケート実施期間：2014 年 10 月 3 日（金）～2014 年 10 月 5 日（日）
- 調査対象：調査会社「株式会社クロス・マーケティング」の登録モニター
- 調査方法：Web 定量調査
- 有効回答数：3,002 サンプル

（３）調査項目

①個人の属性（性別／年齢／居住地／未既婚／職業／家族構成（子供・孫、保育所・学童クラブ等に預けている子供、通所の介護サービスを利用している家族の有無／慢性的な疾患による通院（入院）の有無）

② 知識・情報収集等について

（１）新型インフルエンザ等発生に対する不安感とその理由
（２）新型インフルエンザ等対策に関連する各用語と内容の理解度
（３）新型インフルエンザ等の発生前、発生後のそれぞれの段階で、得たい情報
（４）新型インフルエンザ等発生後に基にする情報源
（５）インフルエンザウイルスに感染する場面の認識

③ 私権制限に対する意識について

（６）新型インフルエンザ等による外出自粛の要請に対して応じることができる外出自粛期間
（７）新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用

④ 特定接種・住民接種に対する意識について

（８）特定接種への賛同度
（９）特定接種に適切だと考える人数
（10）予防接種の優先順位の付け方

２．調査結果要約

【概説】

新型インフルエンザ等対策に関する意識調査を実施した。その結果、新型インフルエンザ等に関する用語の理解や、インフルエンザウイルスに感染する場面の認識は十分とは言い難かった。新型インフルエンザ等に関して得たい情報としては、予防や対処方法に関するものの割合が高かった。また行動の際に基にする情報源としては、「政府」と回答した割合が高かった。よって政府発信の予防や対処方法に関する訴求が求められていると考えられる。

新型インフルエンザ等による外出自粛の要請に応じることのできる期間としては、「4 日～1 週間未満」（33.0%）、「2～3 日」（32.5%）の順で高い回答となっており、特に「百貨店・マーケット（食品など生活関連売り場を除く）」や「感染リスクが高い施設（学校、保育所、通所施設など）」を「使用すると思う」と回答した割合が高かった。よって長期間にわたる外出自粛の要請には、応じられにくいと考えられる。

特定接種への賛同度については、「医療に従事する者」に対する賛成度は 70%を超え、十分に高かった。予防接種の優先順位としては、「医学的ハイリスク者」は、「小児」に比べて優先順位が高かった。ただし優先順位の割合の差は大きいとは言えず、更にそれらの傾向は年代や子供の有無などによって異なる。実際に優先順位をつける際には、国民に十分理解を得る必要があると考えられる。

（１）知識・情報収集等について（Q5~Q12）

◆新型インフルエンザ等発生に対する不安感とその理由（Q5~Q7）

新型インフルエンザ等発生に対する不安感を尋ねると、約半数が「不安である」と回答した（50.3%）。また『20 代』では「不安である」と回答した割合がやや低かった（40.9%）。

「不安ではない」と回答した『20 代』にその理由を尋ねると、「特に理由はない・なんとなく」の割合が最も高かった（64.0%）。このことから、『20 代』では他の年代に比べて新型インフルエンザ等に対する危機感が低いと考えられる。

「不安である」理由として、「新型インフルエンザ等に関する情報・知識が不足しているため」と回答した割合（44.1%）は、「重篤化（症状が非常に重いこと）し、生命に危険が迫る可能性があるため」（64.0%）に次いで２番目に高かった。このことから、新型インフルエンザ等に関する情報提供が求められていると考えられる。

また『50 代』『60 歳以上』では、「不安である」理由として「医療提供体制が不十分であると考えるため」の割合が高かった（それぞれ 42.0、38.2%）。「不安ではない」理由としては、「医療提供体制が整っていると考えるため」が高かった（それぞれ 34.0、32.7%）。このことから、『50 代』『60 歳以上』の者は医療提供体制を重視していると考えられる。

◆新型インフルエンザ等対策への理解度と求める情報（Q8～Q12）

新型インフルエンザ等に関する用語の理解度を尋ねると、「理解していた」の割合が最も高かった用語は『新型インフルエンザ』だった（54.6%）。ただし「十分理解していた」の割合は低く（6.5%）、その他の用語についても「十分理解していた」割合は全て 10%未満だった。このことから、新型インフルエンザ等について、十分には理解していないという認識を持つ者が多くいると考えられる。

更にインフルエンザウイルスに感染する場面の認識としても、正しい認識をしている者ばかりではなかった。特に場面３・４・５については、正しい認識をしていたのは半数程度だった（それぞれ 45.3、51.6、57.1%）。また、この３つの場面については「どちらともいえない（わからない）」と回答した割合が全体の３分の１以上を占めており（それぞれ 38.7、38.0、34.4%）、現状の知識に自信がないと考えられる。

新型インフルエンザ等に関して得たい情報について尋ねると、新型インフルエンザ等が発生していない段階では「感染予防策について」（43.6%）、「どういう場合に感染するかについて（感染ルートについて）」（37.1%）の割合が高く、日本国内で発生している状況下では「感染した場合の対処方法」（57.9%）、「予防方法」（45.9%）といった割合が高かった。

また新型インフルエンザ等が海外でも発生していない段階であっても、「特に得たい情報はない」と答えた割合は 20%未満にとどまっていた（19.1%）。これらのことから、新型インフルエンザ等に関する情報、特に予防や対処方法に関する情報が求められていると考えられる。

行動の際に基にする情報源としては、「政府（国の省庁）」が最も高かった（58.9%）。

（２）私権制限に対する意識について（Q13~Q14）

◆新型インフルエンザ等による外出自粛への対応（Q13~Q14）

新型インフルエンザ等による外出自粛の要請に応じることのできる期間として、「4 日～1 週間未満」（33.0%）が最も高く、「2～3 日」（32.5%）、「1 週間以上～2 週間未満」（11.3%）と続き、「2 ヶ月以上でも応じる」の割合は 10%未満にとどまった（8.4%）。

また、「応じることはできない」と回答した人に、その理由を尋ねたところ〈仕事を休めない〉〈勤務先のフォローが必要〉といった回答が目立った。このことから、実際に外出自粛の要請を出す場合は、勤務先の理解を求める働きかけも必要となってくると考えられる。

外出自粛時に使用する施設としては、「百貨店・マーケット（食品など生活関連売り場を除く）」（20.8%）や「感染リスクが高い施設（学校、保育所、通所施設など）」（11.0%）の割合が高かった。

また『保育所・学童クラブに子供を預けている』者は、ほとんどの施設において「使用する」と回答した割合が高く、その中でも「感染リスクが高い施設（学校、保育所、通所施設など）」は「使用する」の割合が最も高かった（29.6%）。

（３）特定接種・住民接種に対する意識について（Q15~Q17）

◆特定接種への賛同度（Q15~Q16）

特定接種への賛同度について尋ねると、「新型インフルエンザ等に関する医療に従事する者」と「生命・健康に重大・緊急の影響がある医療に従事する者」に対しての特定接種は「賛同できる」と回答した割合が高く（それぞれ 77.5、76.5%）、「賛同できない」割合も３%未満と低かった（それぞれ 2.6、2.5%）。

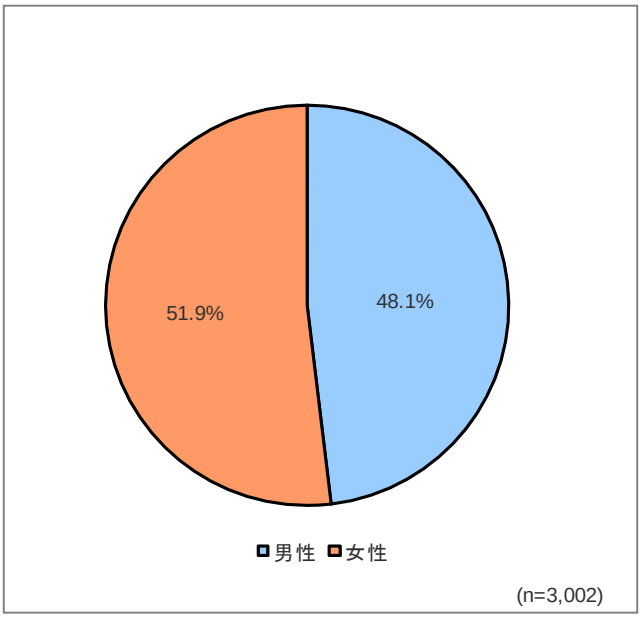
特定接種を行うべき人数について尋ねたところ、「300 万人程度」（17.9%）の割合が最も高く、「1,000 万人程度」を超える人数を回答した割合は少なかった。

ただし「わからない」の割合も高く（37.7%）、特定接種を実行する際には十分に理解を求める必要があると考えられる。

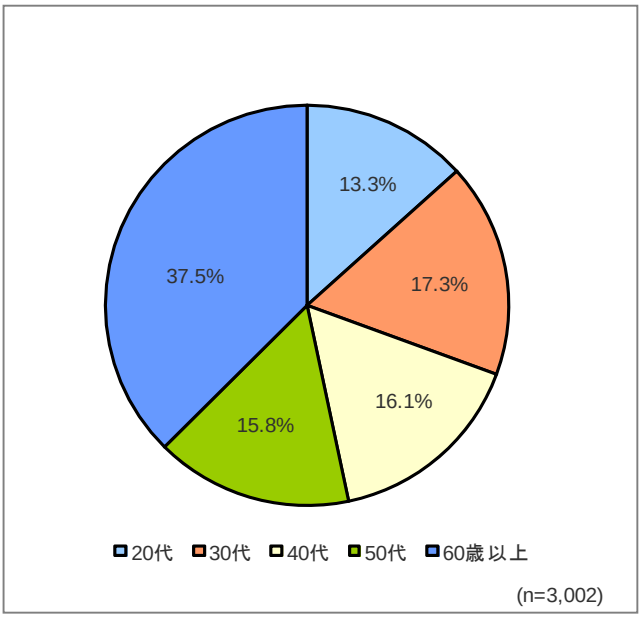
◆予防接種の優先順位の付け方（Q17）

予防接種の優先順位の付け方について尋ねたところ、「重症化、死亡を可能な限り抑えることに重点を置いた考え方」が最も高く（37.4%）、次いで「重症化、死亡を可能な限り抑えることに重点をおきつつ、合わせて日本の将来を守ることにも重点を置く考え方」が高かった（34.3%）。このことから、「医学的ハイリスク者」は、「小児（15 歳未満）」に比べて予防接種の優先順位が高いと認識される割合が高いと考えられる。

３．回答者の基本属性



1 性別

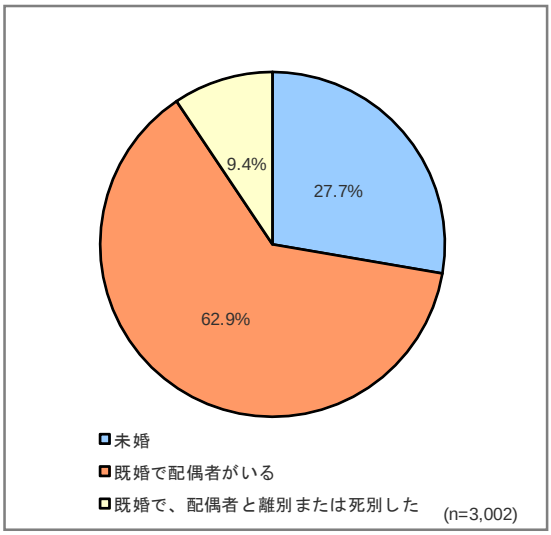


2 年齢

単位：人		北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	合計
男性	20-29歳	8	13	76	36	32	11	5	21	202
	30-39歳	10	17	98	49	42	14	7	26	263
	40-49歳	10	16	90	45	39	13	6	24	243
	50-59歳	11	19	76	43	35	14	8	28	234
	60歳以上	24	38	159	95	82	29	21	53	501
女性	20-29歳	8	13	70	34	34	11	5	22	197
	30-39歳	11	16	92	46	43	14	7	28	257
	40-49歳	11	16	84	43	40	13	7	26	240
	50-59歳	13	19	74	43	38	14	8	30	239
	60歳以上	30	52	189	118	103	36	27	71	626
合計		136	219	1,008	552	488	169	101	329	3,002

3　性別・年代・居住地域割付

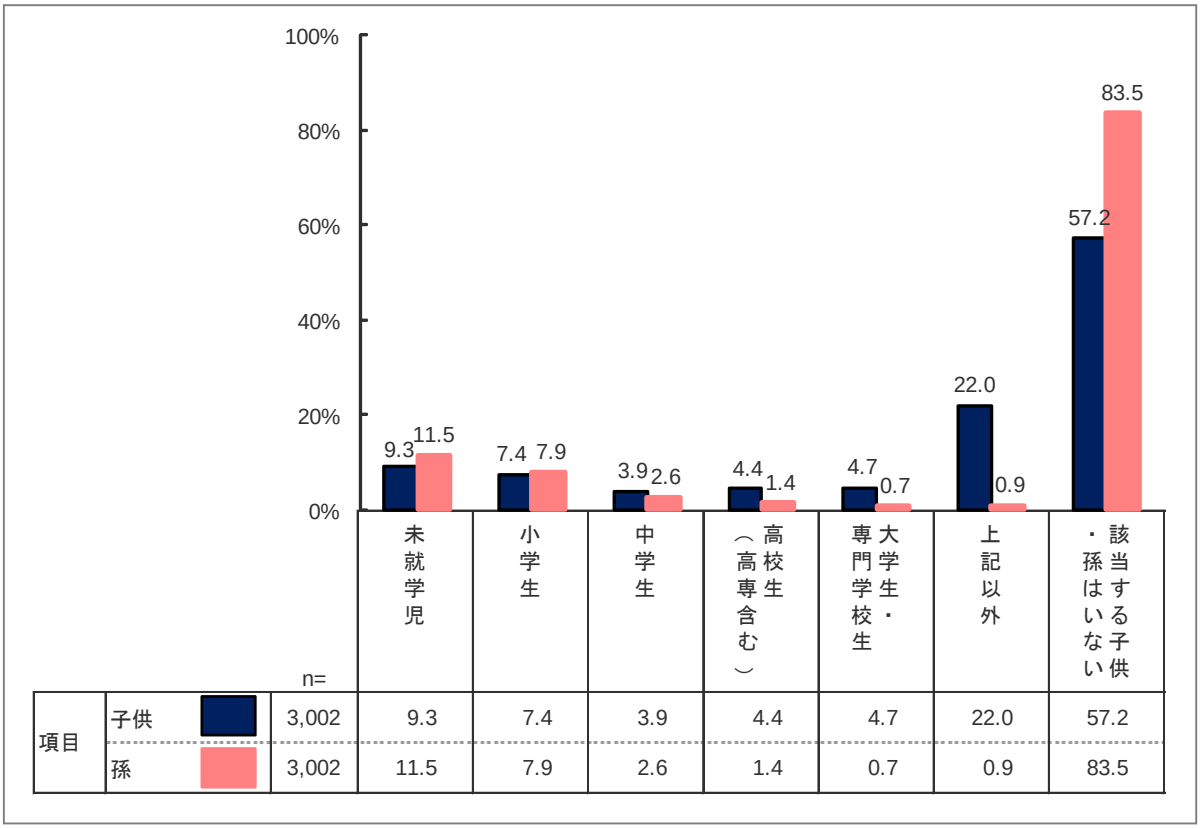
※性別・年代・居住地域割付については、平成 22 年国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）の人口構成比と同一となるように回収した。



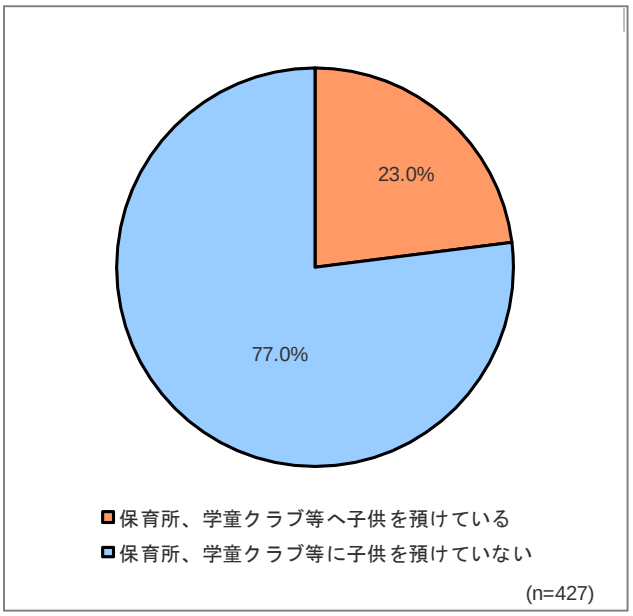
4　未既婚

職業	（%）
会社員（管理職以外の正社員）	18.7
会社員（管理職）	4.8
会社役員・経営者	1.4
派遣・契約社員	6.0
公務員・非営利団体職員	3.5
教職員講師	1.6
医療専門職（医師・看護師・療法士など）	1.9
その他専門職（弁護士、会計士、税理士など）	0.9
農林業	0.5
漁業	-
自営業（農林漁業以外）	5.5
SOHO	0.8
パート・アルバイト・フリーター	12.3
内職	0.3
専業主婦／主夫	21.8
大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生	2.1
高校生	-
無職、定年退職	16.1
その他の職業	2.0
合計	100.0

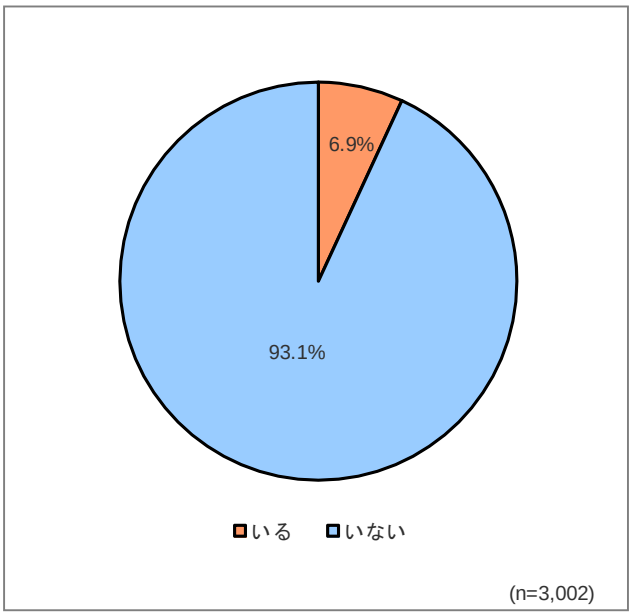
5　職業



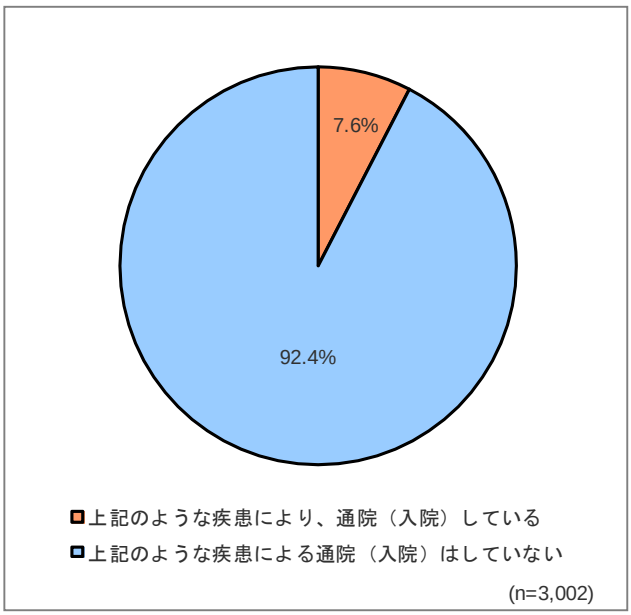
6　子供・孫の有無



7 保育所、学童クラブ等に預けている子供の有無
（未就学児・小学生の子供がいる人ベース）



8 通所の介護サービスを利用している家族の有無



9 慢性的な疾患※による通院（入院）の有無

※慢性的な疾患（今回の調査における定義）・・・気管支喘息等の呼吸器疾患、狭心症等の心疾患（高血圧は除く）、腎不全等の腎疾患及び糖尿病　など

４．調査結果

（１）新型インフルエンザ等発生に対する不安感とその理由

新型インフルエンザ等発生に対する不安感については、「やや不安である」（40.4%）の回答割合が最も高い。これに「とても不安である」（9.9%）を合計すると 50.3%であり、約半数が不安を感じていることがうかがえる。（図 1-1 ）

Ｑ５．あなたは、近い将来、重症化しやすい新型インフルエンザ等が発生して、世界中で大流行が発生し、大きな被害が生じることについて、不安を感じていますか。（ＳＡ）

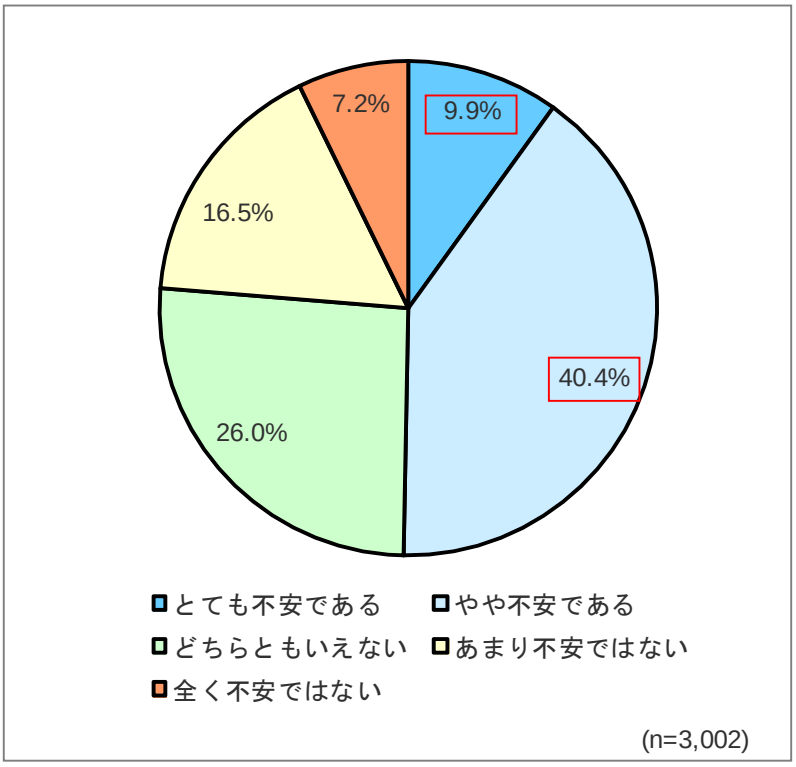


図 1-1　新型インフルエンザ等発生に対する不安感

＜性別＞にみると、『男性』で「不安である　計」（「とても不安である」＋「やや不安である」）の割合は 44.9%となっており、『女性』よりも低い。

＜年代別＞にみると、年代が下がるほど「不安である　計」が低くなっており、特に『20 代』では 40.9%にとどまる。（図 1-2）

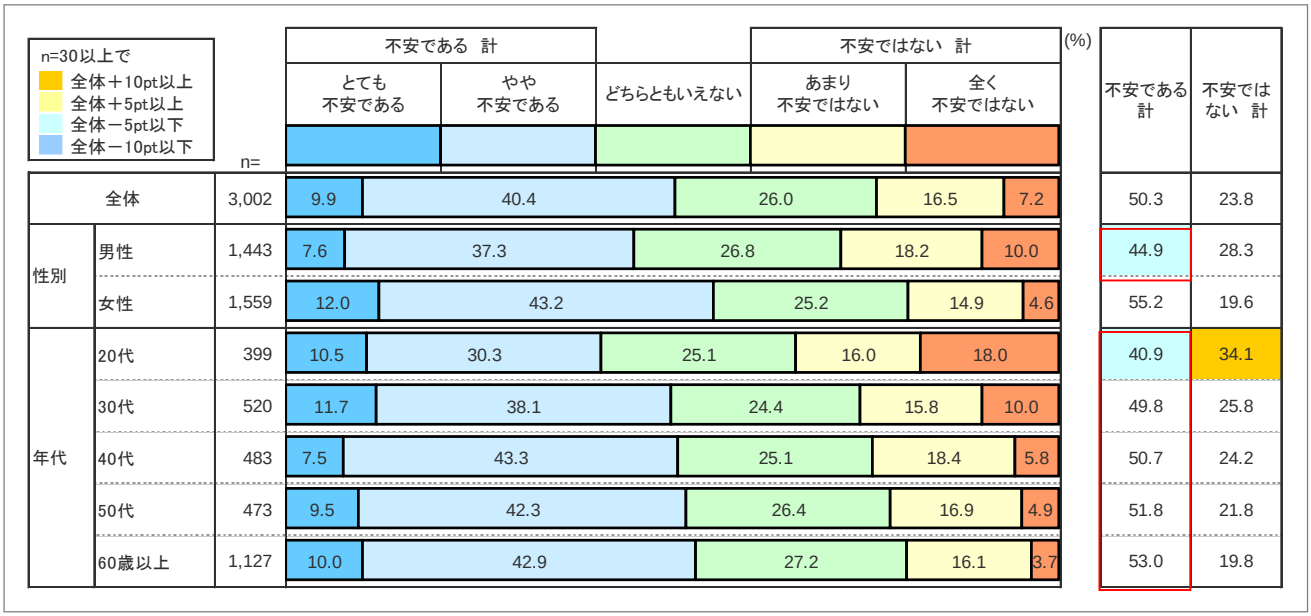


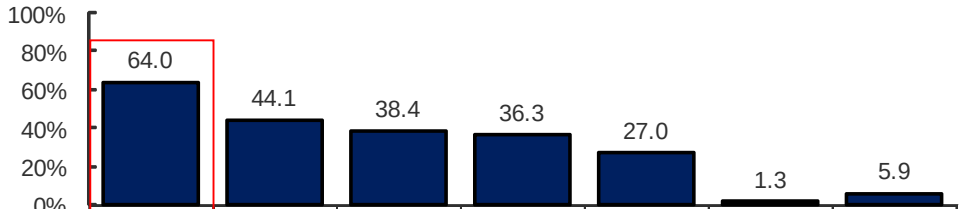
図 1-2　新型インフルエンザ等発生に対する不安感（性別・年代別）

＜新型インフルエンザ等に対して不安を感じる理由＞

新型インフルエンザ等に対して「とても不安である」「やや不安である」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、「重篤化（症状が非常に重いこと）し、生命に危険が迫る可能性があるため」（64.0%）が最も高い。

＜年代別＞にみると、特に『20 代』で「重篤化（症状が非常に重いこと）し、生命に危険が迫る可能性があるため」は高く、71.2%。また『50 代』では「医療提供体制が不十分であると考えるため」が高く 42.0%。（図 2）

Q６．あなたは、先ほど新型インフルエンザ等について、【とても不安である／やや不安である】と回答しましたが、その理由について、以下からあてはまるものをすべてお選びください。（MA）



n=30以上で
全体＋10pt以上
全体＋5pt以上
全体－5pt以下
全体－10pt以下

		n=	重篤化（症状が非常に重いこと）し、生命に危険が迫る可能性があるため	新型インフルエンザ等に関する情報・知識が不足しているため	混乱により、社会機能が維持されない可能性があるため	医療提供体制が不十分であると考えるため	政府・自治体の対策が不十分であると考えるため	その他	特に理由はない・なんとなく
全体		1,509	64.0	44.1	38.4	36.3	27.0	1.3	5.9
性別	男性	648	61.6	41.5	42.9	36.7	26.2	1.4	4.6
	女性	861	65.9	46.0	35.0	36.0	27.5	1.2	6.9
年代	20代	163	71.2	47.2	36.2	30.1	27.6	2.5	5.5
	30代	259	66.0	45.6	33.6	29.3	25.1	0.8	4.6
	40代	245	66.9	44.1	42.4	37.6	26.5	1.2	6.9
	50代	245	68.6	40.4	43.3	42.0	24.9	0.8	3.7
	60歳以上	597	58.1	44.1	37.4	38.2	28.6	1.3	7.0

※全体の値を基準に降順並び替え

図 2　新型インフルエンザ等発生に対して不安を感じる理由

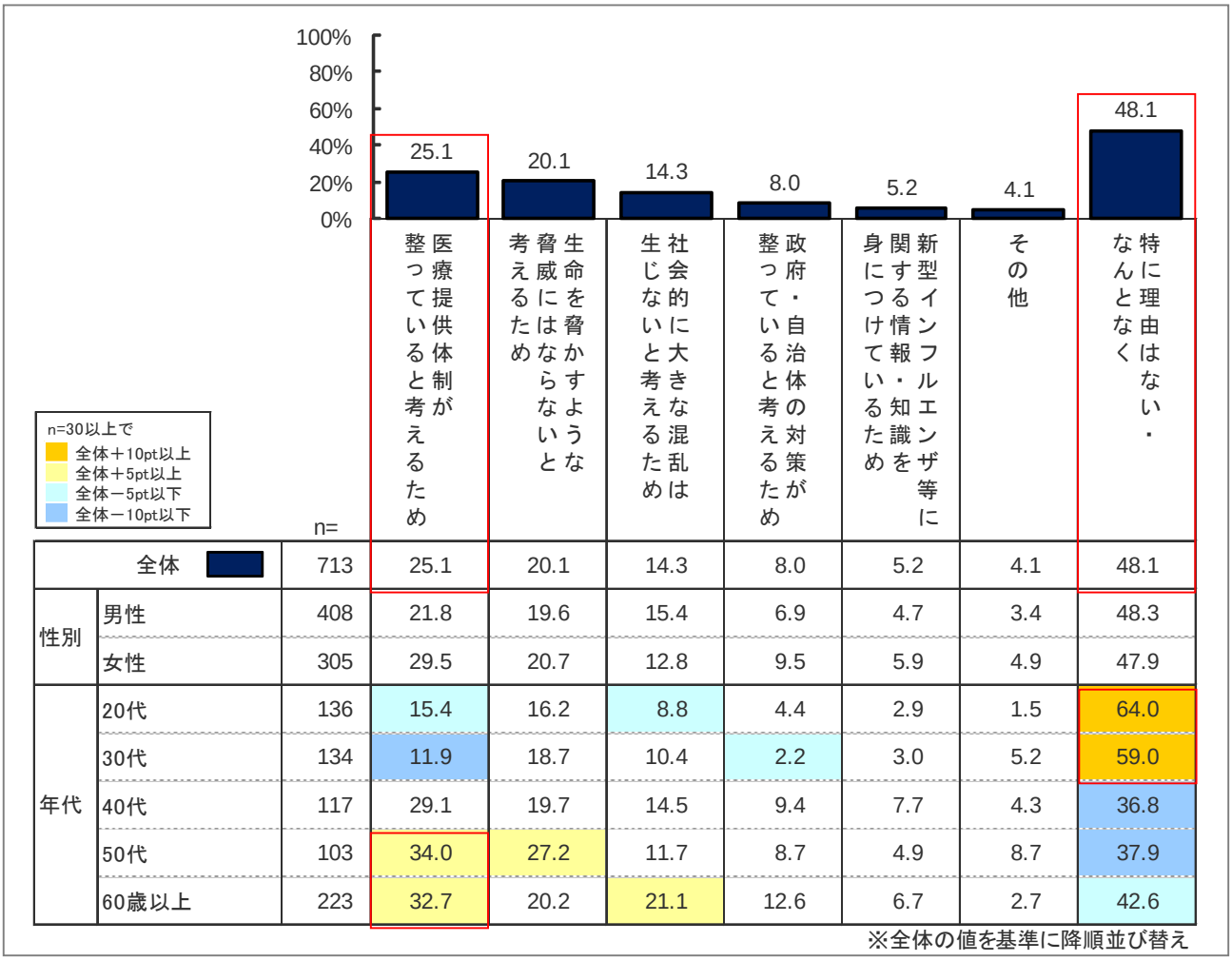
（「とても不安である」、「やや不安である」と回答した人ベース）

＜新型インフルエンザ等に対して不安を感じない理由＞

新型インフルエンザ等に対して「あまり不安ではない」「全く不安ではない」と回答した人に対してその理由を尋ねたところ、最も高いのは「特に理由はない・なんとなく」で 48.1%。また具体的な理由の中で最も高いのは「医療提供体制が整っていると考えるため」で 25.1%。

＜年代別＞にみると、『20 代』『30 代』では「特に理由はない・なんとなく」が他の年代と比べて高く 60%前後。また『50 代』『60 歳以上』では「医療提供体制が整っていると考えるため」が高く、30%を超える。（図 3）

Q７．あなたは、先ほど新型インフルエンザ等について、【全く不安ではない／あまり不安ではない】と回答しましたが、その理由について、以下からあてはまるものをすべてお選びください。（MA）



		n=	医療提供体制が整っていると考えるため	生命を脅かすような脅威にはならないと考えるため	社会的に大きな混乱は生じないと考えるため	政府・自治体の対策が整っていると考えるため	新型インフルエンザ等に関する情報・知識を身につけているため	その他	特に理由はない・なんとなく
全体		713	25.1	20.1	14.3	8.0	5.2	4.1	48.1
性別	男性	408	21.8	19.6	15.4	6.9	4.7	3.4	48.3
	女性	305	29.5	20.7	12.8	9.5	5.9	4.9	47.9
年代	20代	136	15.4	16.2	8.8	4.4	2.9	1.5	64.0
	30代	134	11.9	18.7	10.4	2.2	3.0	5.2	59.0
	40代	117	29.1	19.7	14.5	9.4	7.7	4.3	36.8
	50代	103	34.0	27.2	11.7	8.7	4.9	8.7	37.9
	60歳以上	223	32.7	20.2	21.1	12.6	6.7	2.7	42.6

図 3　新型インフルエンザ等発生に対して不安を感じない理由

（「あまり不安ではない」、「全く不安ではない」と回答した人ベース）

（２）新型インフルエンザ等対策に関連する各用語と内容の理解度

新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容について、どの程度理解していたかを尋ねたところ、「理解していた　計」（「十分に理解していた」＋「概ね理解していた」）は「新型インフルエンザ」（54.6%）が最も高く、「抗インフルエンザウイルス剤」（38.7%）、「新型インフルエンザ等緊急事態宣言」（28.2%）と続く。一方で「十分に理解していた」の割合は、いずれの用語も 10%未満にとどまる。（図 4-1）

Q８．あなたは、新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容について、どの程度ご存知ですか。(SA)

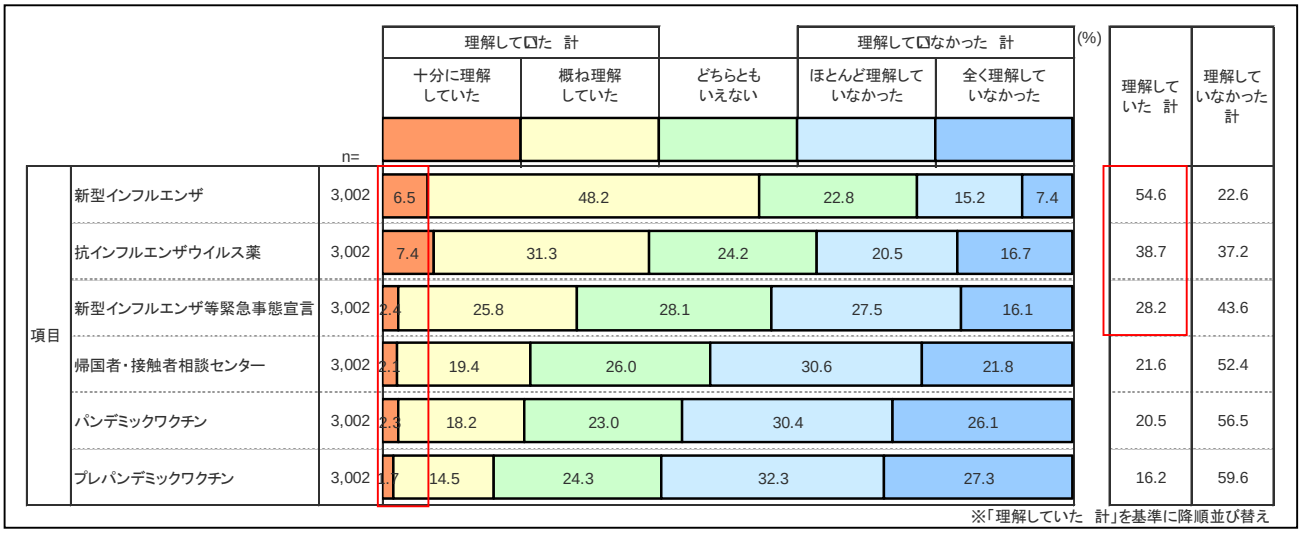


図 4-1　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度

＜年代別＞にみると、どの用語についても『20 代』での「理解していた　計」（「十分に理解していた」＋「概ね理解していた」）が低く、『50 代』、『60 歳以上』では高い傾向がある。（図 4-2～図 4-7）

【新型インフルエンザ】

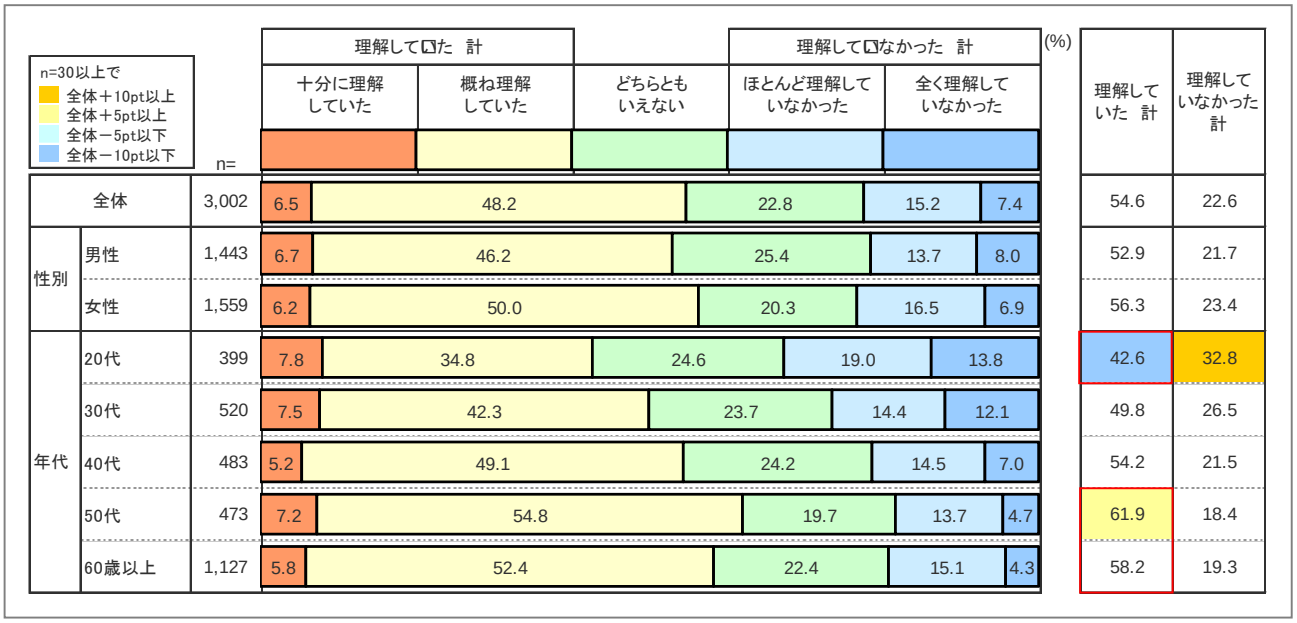


図 4-2　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（新型インフルエンザ）

【抗インフルエンザウイルス薬】

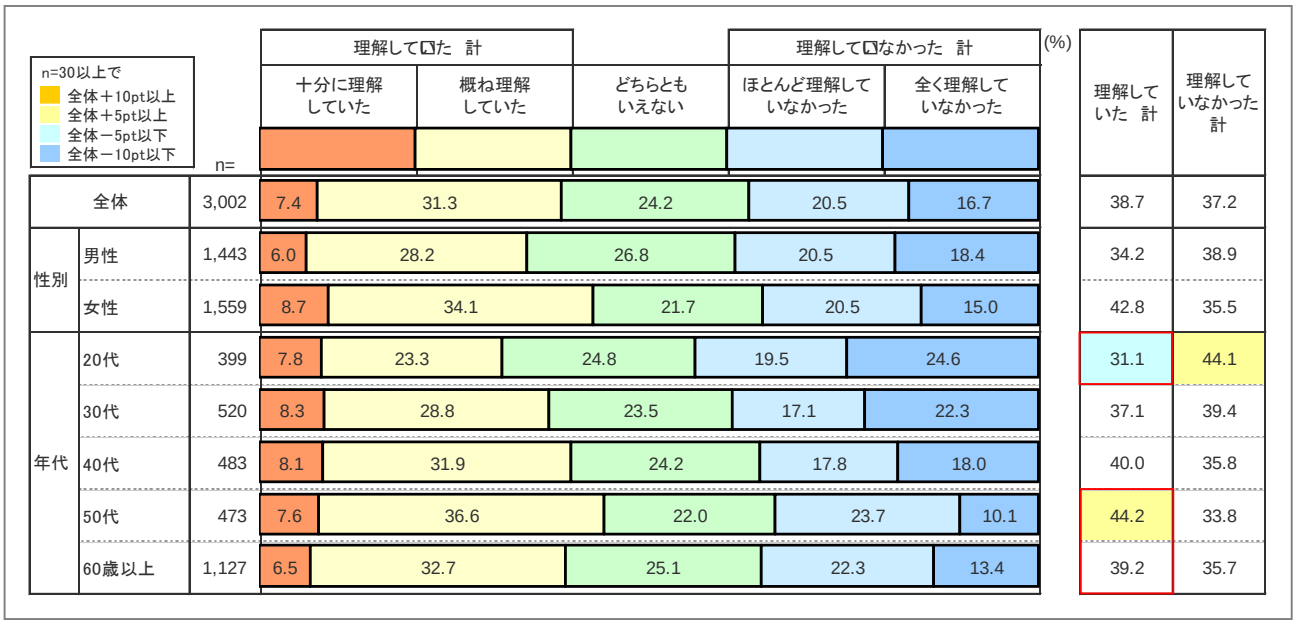


図 4-3　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（抗インフルエンザウイルス薬）

【新型インフルエンザ等緊急事態宣言】

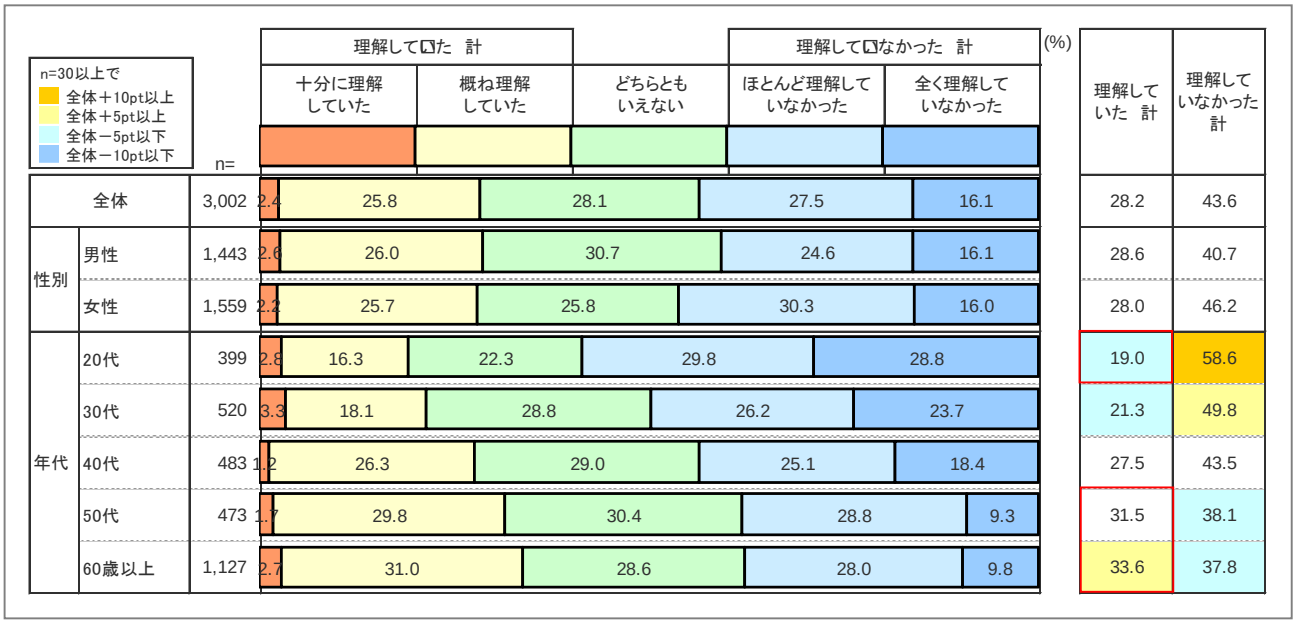


図 4-4　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（新型インフルエンザ等緊急事態宣言）

【帰国者・接触者相談センター】

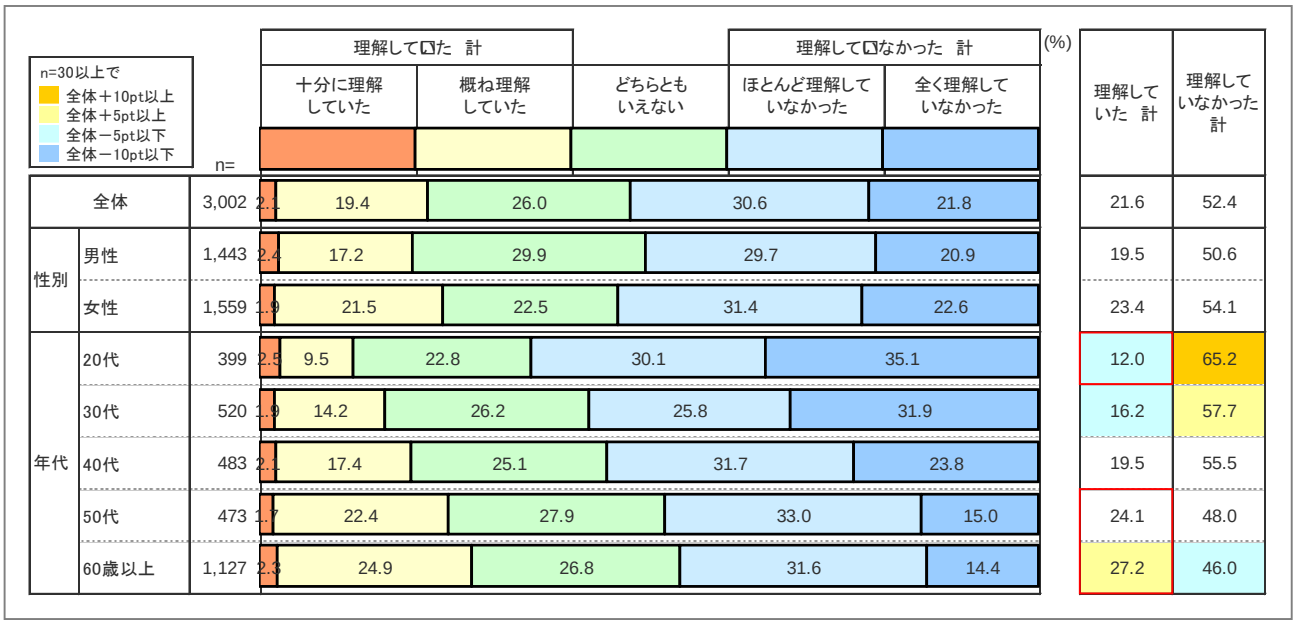


図 4-5　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（帰国者・接触者相談センター）

【パンデミックワクチン】

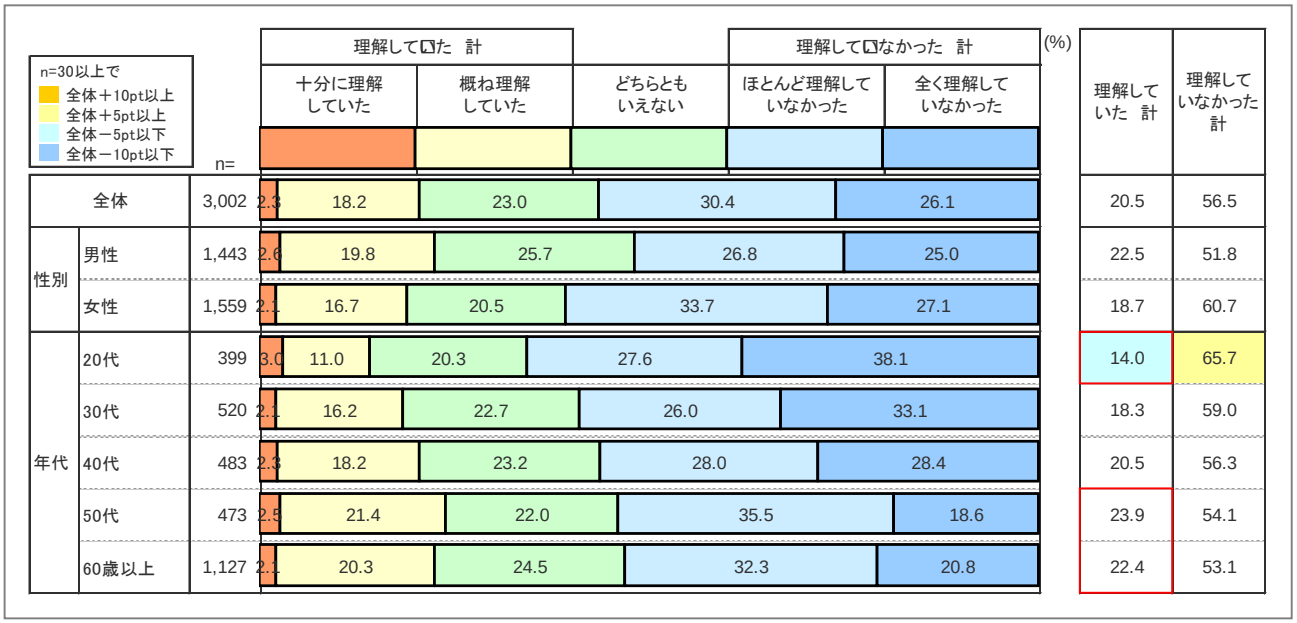


図 4-6　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（パンデミックワクチン）

【プレパンデミックワクチン】

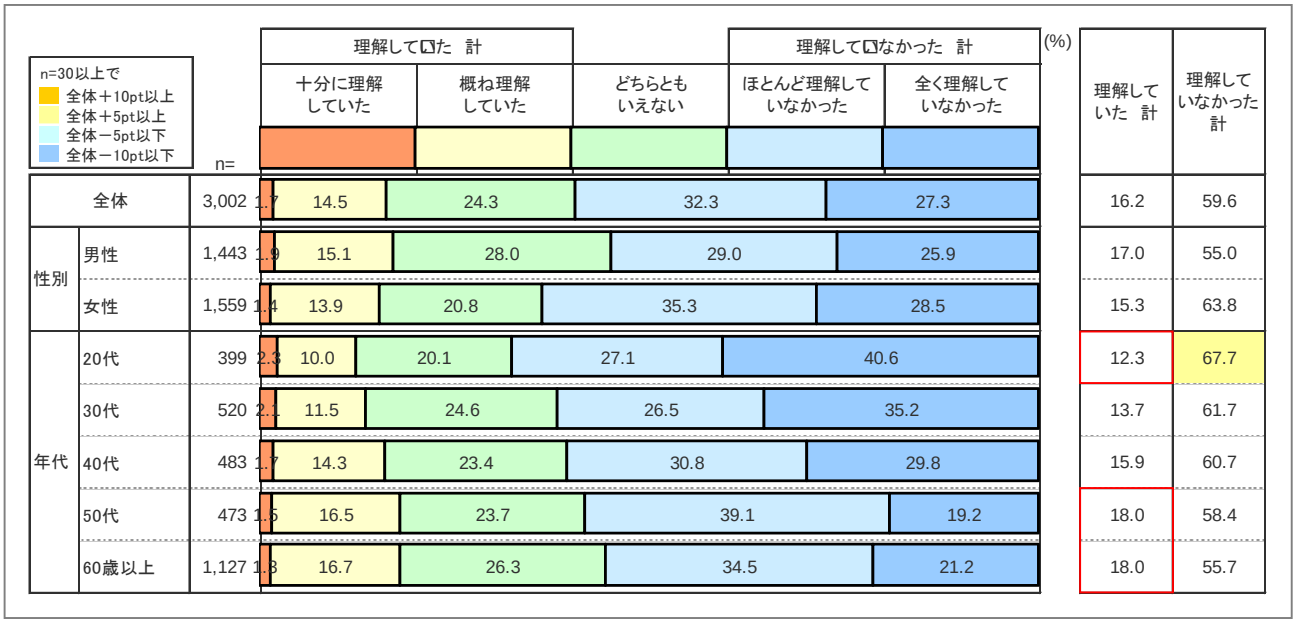


図 4-7　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（プレパンデミックワクチン）

また、＜職業別＞の中で、会社員の属性別の理解度をみると、全ての質問において「役員・経営者」の理解度が最も高く、その後「管理職」、「管理職以外の正社員」の順に高い理解度となっており、役職に応じて、危機管理の意識が高いことが考えられる。（図 4-8）

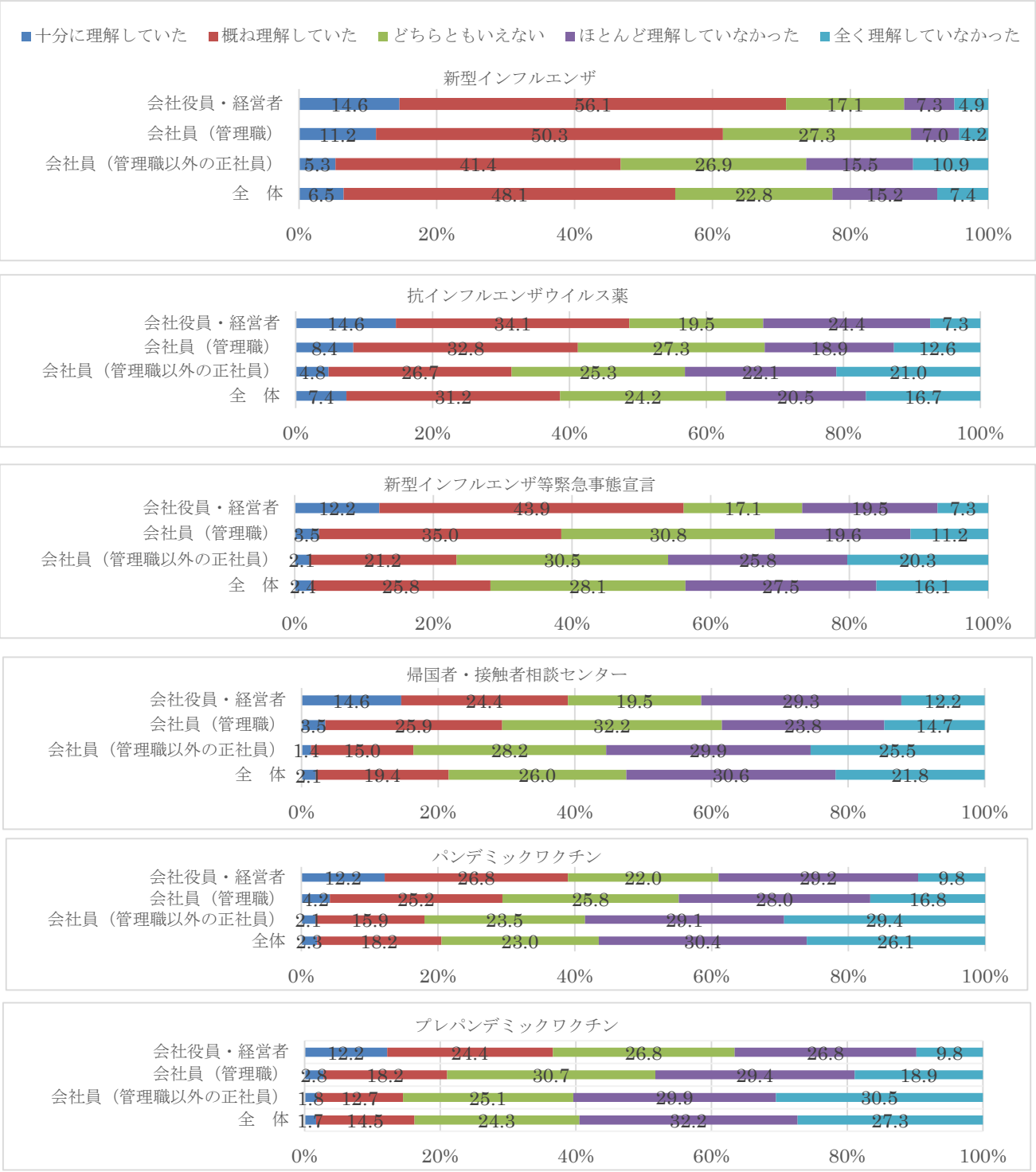


図 4-8　新型インフルエンザ等対策に関連する以下の各用語と内容の理解度
（職業別（会社員属性別））

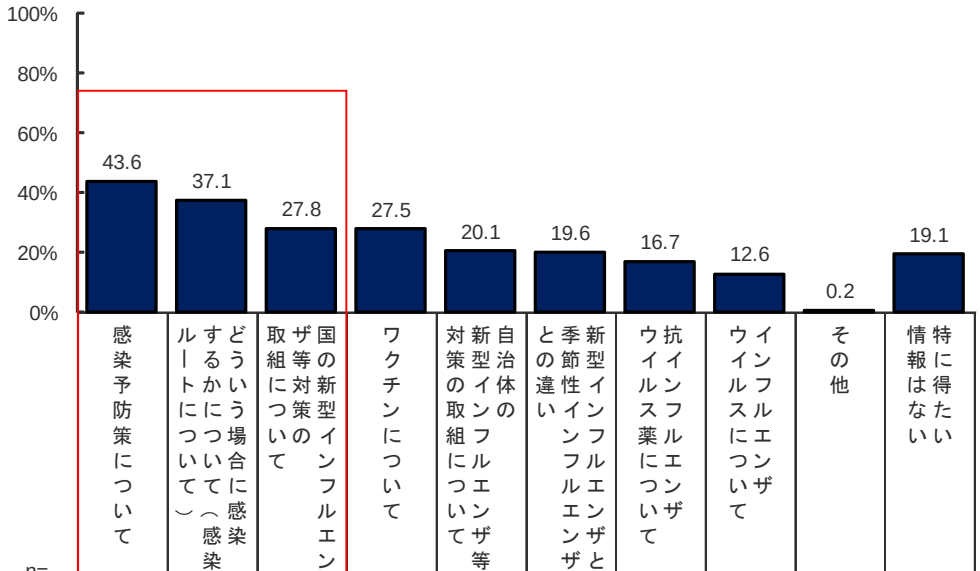
（３）得たい情報

＜新型インフルエンザ等が海外でも発生していない段階＞

新型インフルエンザ等が海外でも発生していない段階で得たい情報としては、「感染予防策について」（43.6%）が最も高く、「どういう場合に感染するかについて（感染ルートについて）」（37.1%）、「国の新型インフルエンザ等対策の取組について」（27.8%）と続く。

＜年代別＞にみると、『20 代』『30 代』では「特に得たい情報はない」が他の年代に比べて高い。（図 5）

Q9　あなたは、新型インフルエンザ等が日本国内のみならず、海外でも発生していない段階で、新型インフルエンザ等に関する情報として、どのような情報を得たいと考えますか。あてはまるものを 3 つまでお選びください。(MA)



		n=	感染予防策について	どういう場合に感染するかについて（感染ルートについて）	国の新型インフルエンザ等対策の取組について	ワクチンについて	自治体の新型インフルエンザ等対策の取組について	新型インフルエンザと季節性インフルエンザとの違い	抗インフルエンザウイルス薬について	インフルエンザウイルスについて	その他	特に得たい情報はない
全体		3,002	43.6	37.1	27.8	27.5	20.1	19.6	16.7	12.6	0.2	19.1
性別	男性	1,443	38.7	32.1	29.5	24.7	21.0	16.8	13.6	13.3	0.3	23.2
	女性	1,559	48.1	41.8	26.3	30.1	19.3	22.2	19.5	12.0	0.1	15.3
年代	20代	399	35.8	32.6	25.8	18.8	13.5	14.0	11.8	11.8	-	32.8
	30代	520	40.0	34.0	28.5	23.7	19.2	18.3	14.8	13.1	0.2	24.4
	40代	483	42.2	36.9	29.4	30.4	17.6	19.0	14.5	14.3	0.2	18.0
	50代	473	47.4	40.6	28.1	29.2	21.6	19.0	20.3	10.1	0.2	14.6
	60歳以上	1,127	46.9	38.8	27.5	30.5	23.3	22.7	18.6	13.0	0.3	14.1

※全体の値を基準に降順並び替え

図 5　得たい情報

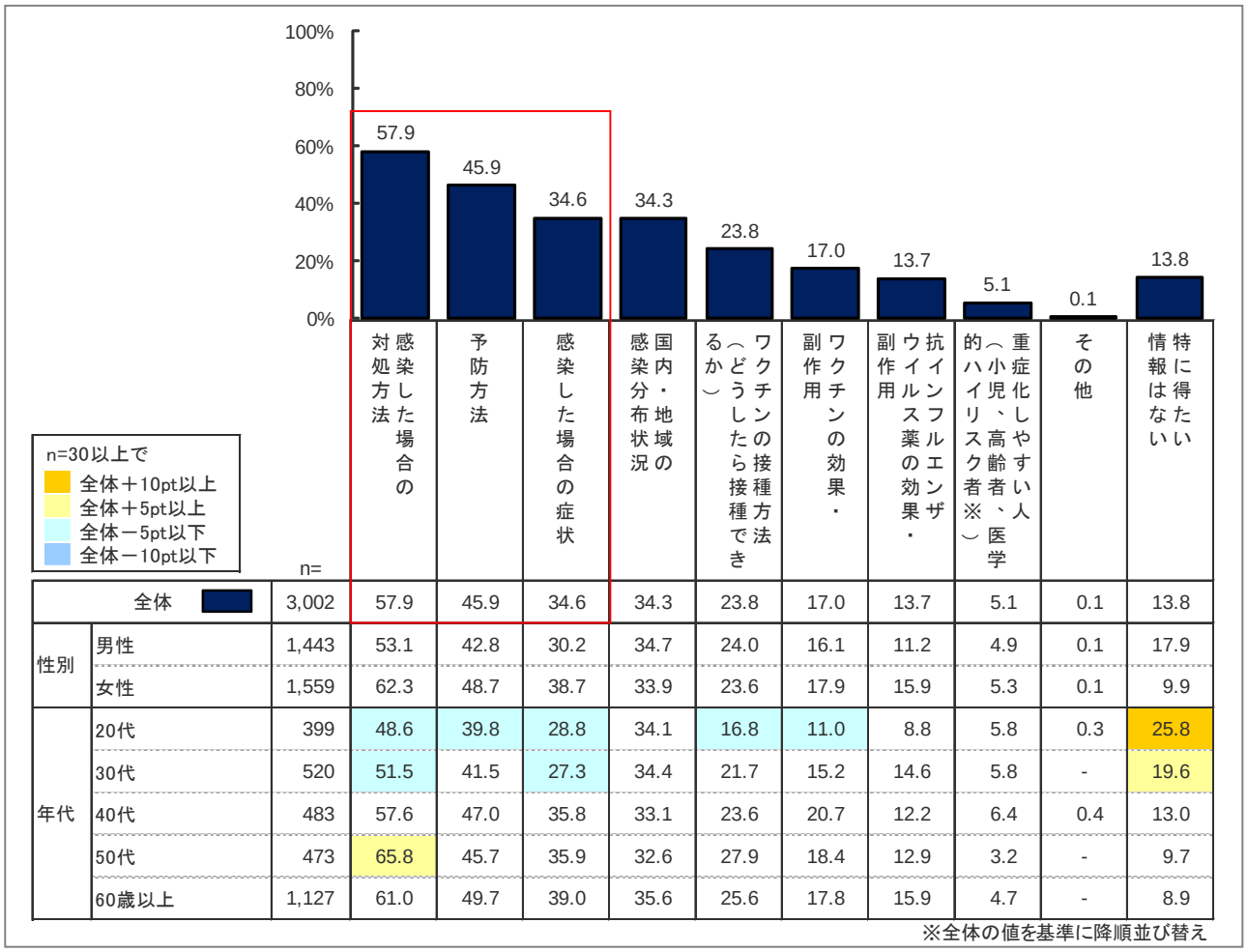
（新型インフルエンザ等が海外でも発生していない段階）

＜新型インフルエンザ等が日本国内で発生している状況下＞

新型インフルエンザ等が日本国内で発生している状況下において得たい情報としては、「感染した場合の対処方法」（57.9%）が最も高く、「予防方法」（45.9%）、「感染した場合の症状」（34.6%）と続く。

＜年代別＞にみると、『20 代』『30 代』では「特に得たい情報はない」が他の年代に比べて高く 20%前後。また『50 代』『60 歳以上』では「感染した場合の対処方法」が高く、60%を超える。（図 6）

Q10　あなたは、新型インフルエンザ等が日本国内で発生している状況下において、新型インフルエンザ等に関する情報として、どのような情報を得たいと考えますか。あてはまるものを 3 つまでお選びください。(MA)



		n=	感染した場合の対処方法	予防方法	感染した場合の症状	国内・地域の感染分布状況	ワクチンの接種方法（どうしたら接種できるか）	ワクチンの効果・副作用	抗インフルエンザウイルス薬の効果・副作用	重症化しやすい人（小児、高齢者、医学的ハイリスク者※）	その他	特に得たい情報はない
全体		3,002	57.9	45.9	34.6	34.3	23.8	17.0	13.7	5.1	0.1	13.8
性別	男性	1,443	53.1	42.8	30.2	34.7	24.0	16.1	11.2	4.9	0.1	17.9
	女性	1,559	62.3	48.7	38.7	33.9	23.6	17.9	15.9	5.3	0.1	9.9
年代	20代	399	48.6	39.8	28.8	34.1	16.8	11.0	8.8	5.8	0.3	25.8
	30代	520	51.5	41.5	27.3	34.4	21.7	15.2	14.6	5.8	-	19.6
	40代	483	57.6	47.0	35.8	33.1	23.6	20.7	12.2	6.4	0.4	13.0
	50代	473	65.8	45.7	35.9	32.6	27.9	18.4	12.9	3.2	-	9.7
	60歳以上	1,127	61.0	49.7	39.0	35.6	25.6	17.8	15.9	4.7	-	8.9

※全体の値を基準に降順並び替え

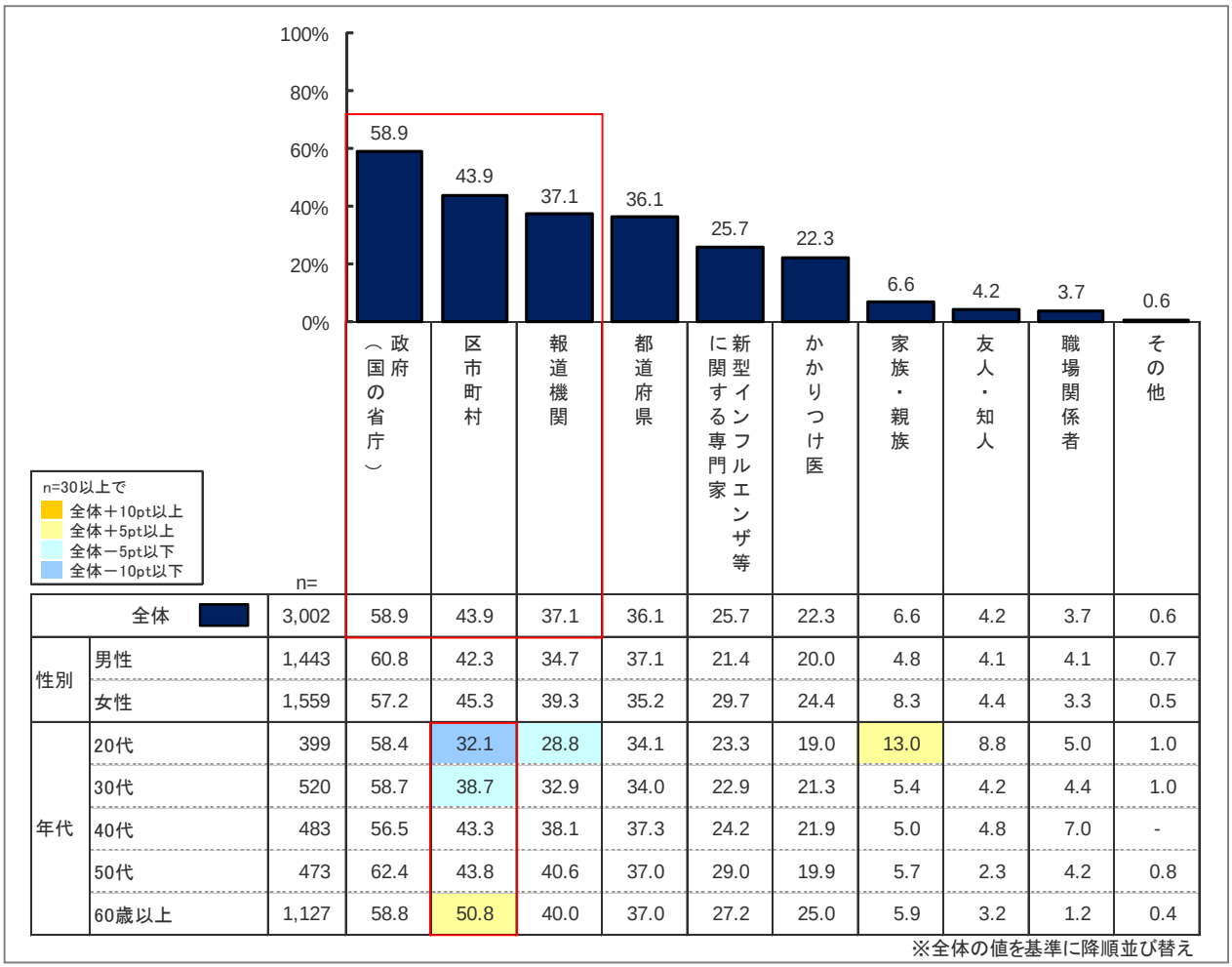
図 6　得たい情報
（新型インフルエンザ等が日本国内で発生している状況下）

（4）新型インフルエンザ等発生後に基にする情報源

新型インフルエンザ等が発生している状況下において、どこから発信された情報を基にして行動するかを尋ねたところ、「政府（国の省庁）」（58.9%）が最も高く、「区市町村」（43.9%）、「報道機関」（37.1%）と続く。

＜年代別＞にみると、「区市町村」は年代が高いほど割合が高く、特に『60 歳以上』では 50.8%。（図 7）

Q11　あなたは、新型インフルエンザ等が発生している状況下において、どこから発信された情報を基にして行動しますか。あてはまるものを 3 つまでお選びください。(MA)



		n=	政府（国の省庁）	区市町村	報道機関	都道府県	新型インフルエンザ等に関する専門家	かかりつけ医	家族・親族	友人・知人	職場関係者	その他
全体		3,002	58.9	43.9	37.1	36.1	25.7	22.3	6.6	4.2	3.7	0.6
性別	男性	1,443	60.8	42.3	34.7	37.1	21.4	20.0	4.8	4.1	4.1	0.7
	女性	1,559	57.2	45.3	39.3	35.2	29.7	24.4	8.3	4.4	3.3	0.5
年代	20代	399	58.4	32.1	28.8	34.1	23.3	19.0	13.0	8.8	5.0	1.0
	30代	520	58.7	38.7	32.9	34.0	22.9	21.3	5.4	4.2	4.4	1.0
	40代	483	56.5	43.3	38.1	37.3	24.2	21.9	5.0	4.8	7.0	-
	50代	473	62.4	43.8	40.6	37.0	29.0	19.9	5.7	2.3	4.2	0.8
	60歳以上	1,127	58.8	50.8	40.0	37.0	27.2	25.0	5.9	3.2	1.2	0.4

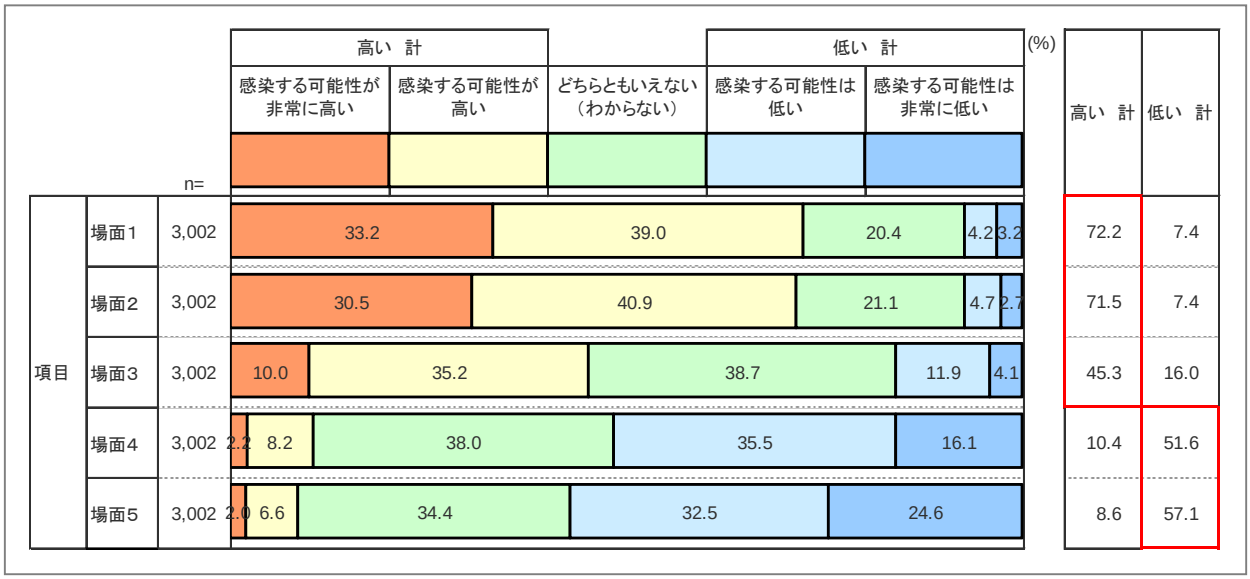
※全体の値を基準に降順並び替え

図 7　新型インフルエンザ等発生下に基にする情報源

（5）インフルエンザウイルスに感染する場面の認識

下の参考情報に示すそれぞれの場面について、新型インフルエンザ等が感染する可能性がどの程度あるかを尋ねたところ、場面１・２については「高い 計」（「感染する可能性が非常に高い」＋「感染する可能性が高い」）の割合が高く 70%を超える。場面４・５については「低い 計」（「感染する可能性は低い」＋「感染する可能性は非常に低い」）の割合が高く 50%を超える。場面３については、「高い 計」が 45.3%にとどまる。（図 8）

Q12　あなたは、以下のそれぞれの場面において、インフルエンザウイルスに感染する可能性はどの程度であると考えますか。(SA)



※赤枠は、一般的に正しいとされる認識をしていた割合に該当する

図 8-1　インフルエンザウイルスに感染する場面の認識

＜参考情報：場面と解説＞

場面１	感染者と同じコップで回し飲みをした場合
場面２	感染者が、自身の唾液がついた手で触れたドアノブを、その直後に触れ、その触れた手を用いて手づかみで食事をした場合
場面３	室内での球技大会で、感染者が出場しているチームと試合を行った場合
場面４	感染拡大により、数日前から休校している学校沿いの道路を、徒歩で通行した場合
場面５	感染者が着ていた服をクリーニングした店で、数日後にクリーニングした服を着た場合

季節性インフルエンザの場合、主な感染経路は、飛沫感染と接触感染であると考えられており、一般的に空気中では数時間で活性を失うとされています。新型インフルエンザについては、必ずしも、感染経路を特定することはできませんが、飛沫感染と接触感染が主な感染経路と推測されています。よって、一般的には、場面 1、2、3 の場合は感染する可能性があり、4、5 は感染する可能性はないといえます（数日間感染者が出入りしていない施設周辺を歩くことや数日後にクリーニングした衣服から感染することはありません）。

（6）新型インフルエンザ等による外出自粛の要請に対して応じることができる外出自粛期間

新型インフルエンザ等による外出自粛の要請が出た場合に応じることができる期間を尋ねたところ、「4 日～1 週間未満」（33.0%）が最も高く、「2～3 日」（32.5%）、「1 週間以上～2 週間未満」（11.3%）と続く。（図 9-1）

Q13　あなたは、自分の住んでいる都道府県から新型インフルエンザ等による外出自粛の要請が出た場合、どのくらいの期間の外出自粛要請であれば、応じることができますか。（SA）

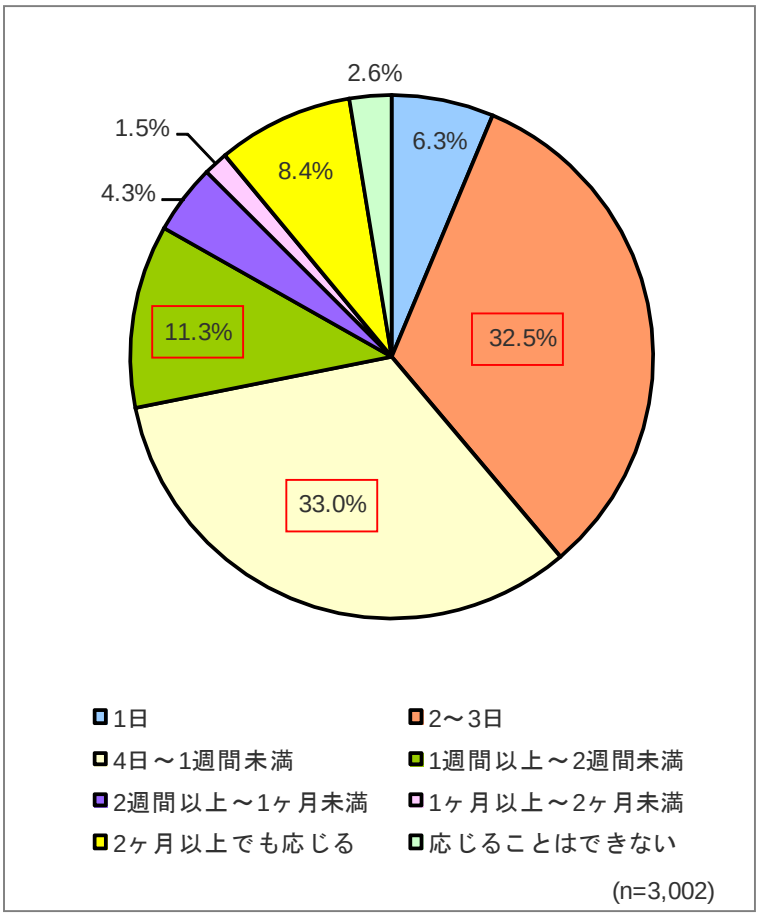


図 9-1　応じることができる外出自粛期間

＜年代別＞にみると、『20 代』では一週間以上応じることができると回答した割合が高い（応じることができる期間がやや長い）。（図 9-2）

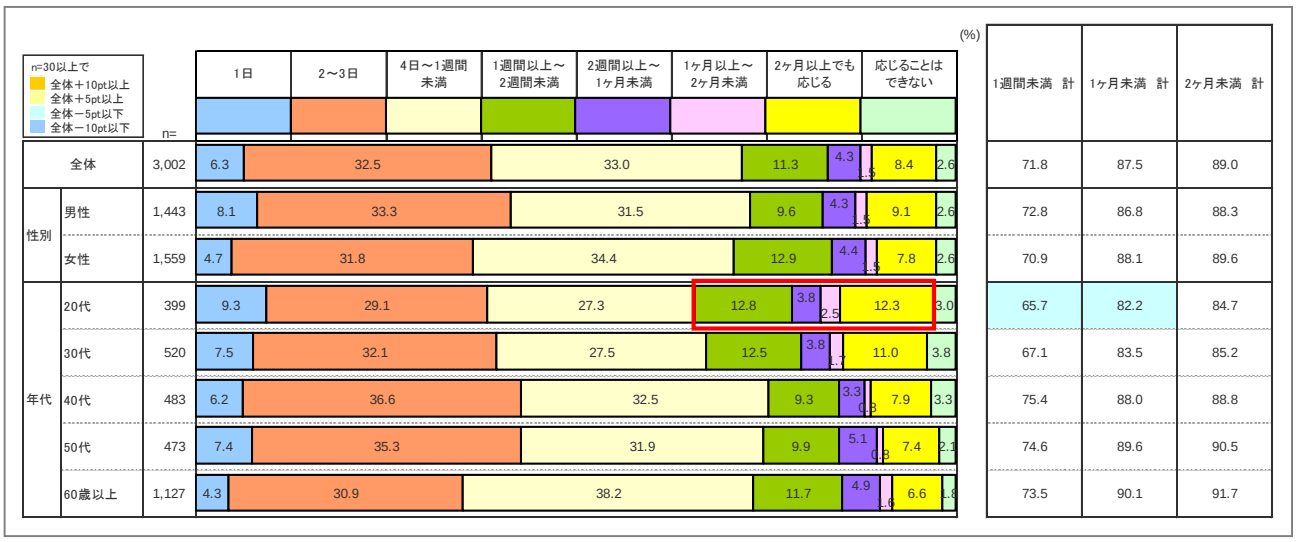


図 9-2　応じることができる外出自粛期間（性別・年代別）

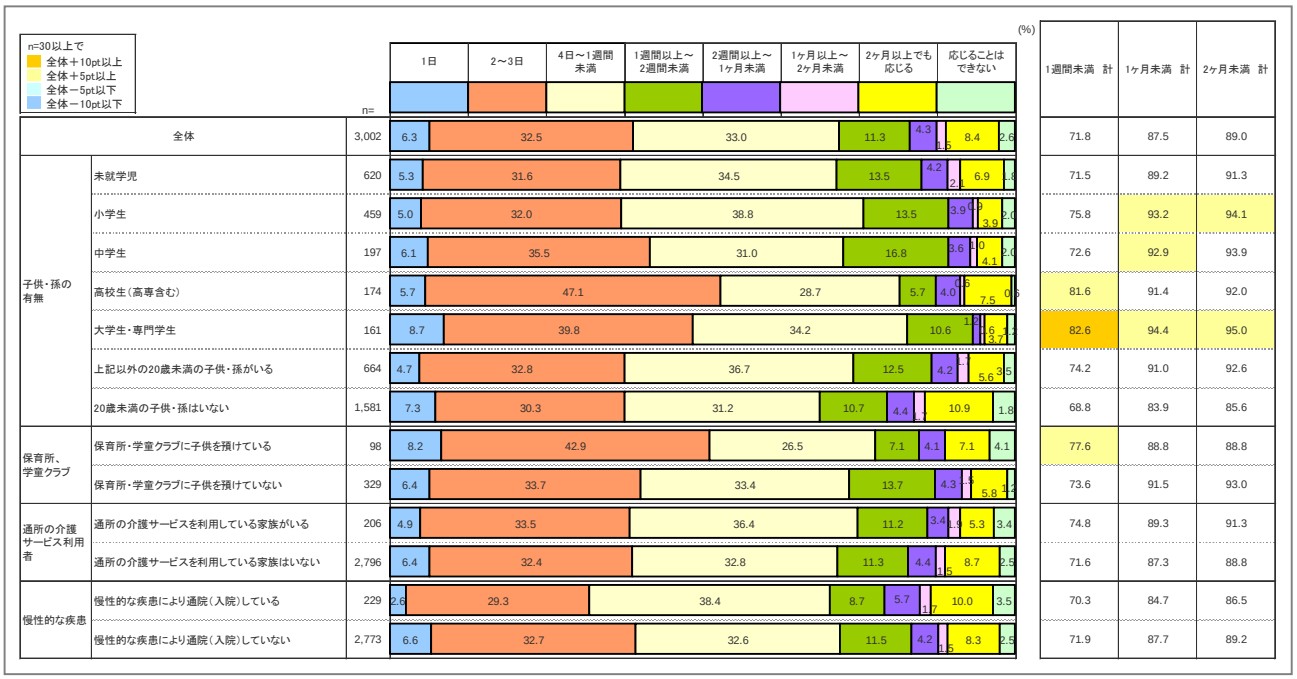


図 9-3　応じることができる外出自粛期間
（子供・孫の有無別、保育所、学童クラブ別、通所の介護サービス利用者別、慢性的な疾患別）

（7）新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用

新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用意向について、どの程度使用すると思うか尋ねたところ、「使用する　計」（「必ず使用すると思う」＋「時々は使用すると思う」）は「百貨店、マーケット（食品等生活関連売場を除く）」（20.8%）が最も高く、「感染リスクが高い施設」（11.0%）が続く。

その他の項目については、「使用する　計」が 10%未満と低い。（図 10-1）

Q14　あなたは、新型インフルエンザ等による外出自粛の要請が出た場合、以下の各施設について、どの程度使用すると思いますか。

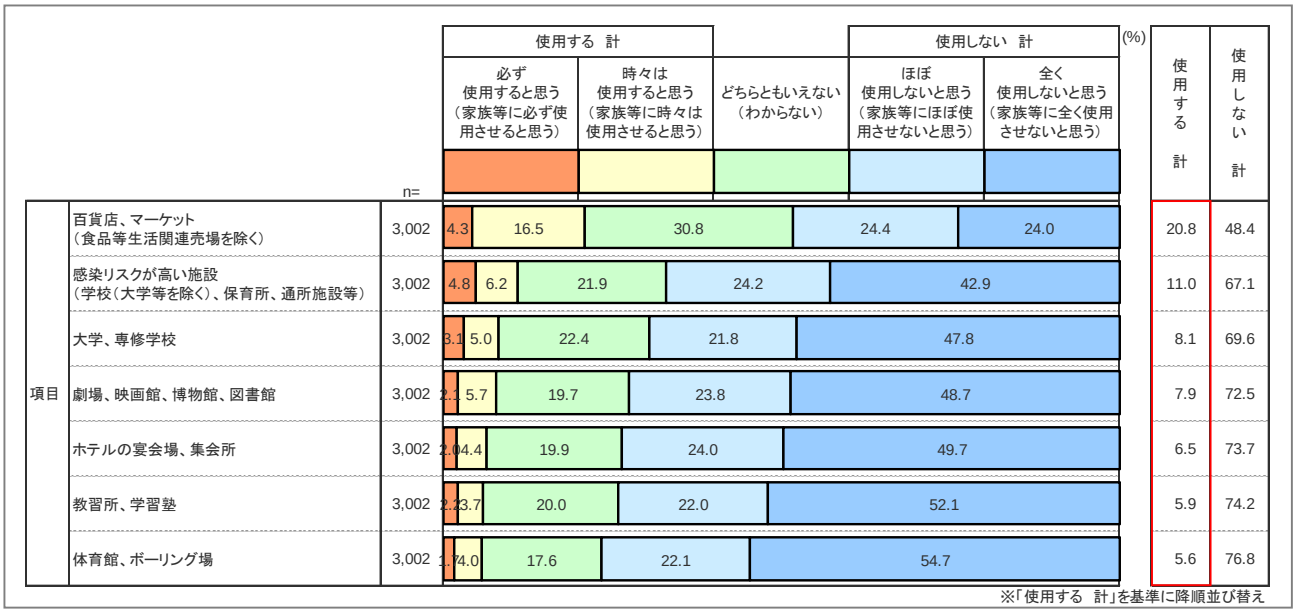


図 10-1　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用

＜保育所、学童クラブ利用別＞にみると、「保育所・学童クラブに子供を預けている」では、特に「感染リスクが高い施設（学校（大学等を除く）、保育所、通所施設等）」の「使用する　計」の割合が高く29.6%。（図 10-3）

【百貨店、マーケット（食品等生活関連売場を除く）】

n=30以上で
- 全体＋10pt以上
- 全体＋5pt以上
- 全体－5pt以下
- 全体－10pt以下

(%)

		n=	使用する 計：必ず使用すると思う（家族等に必ず使用させると思う）	使用する 計：時々は使用すると思う（家族等に時々は使用させると思う）	どちらともいえない（わからない）	使用しない 計：ほぼ使用しないと思う（家族等にほぼ使用させないと思う）	使用しない 計：全く使用しないと思う（家族等に全く使用させないと思う）	使用する 計	使用しない 計
全体		3,002	4.3	16.5	30.8	24.4	24.0	20.8	48.4
性別	男性	1,443	4.0	15.9	35.3	24.0	20.7	19.9	44.8
	女性	1,559	4.6	17.0	26.6	24.8	27.0	21.6	51.8
年代	20代	399	5.0	22.1	36.1	18.0	18.8	27.1	36.8
	30代	520	6.3	18.8	34.6	21.0	19.2	25.2	40.2
	40代	483	4.8	15.5	34.8	20.9	24.0	20.3	44.9
	50代	473	4.2	16.9	26.6	26.0	26.2	21.1	52.2
	60歳以上	1,127	2.9	13.7	27.2	29.1	27.1	16.6	56.2
子供・孫の有無	未就学児	620	3.9	14.7	31.0	24.7	25.8	18.5	50.5
	小学生	459	3.5	13.3	29.8	29.4	24.0	16.8	53.4
	中学生	197	4.1	14.7	23.4	26.9	31.0	18.8	57.9
	高校生（高専含む）	174	4.0	14.4	22.4	33.9	25.3	18.4	59.2
	大学生・専門学生	161	5.0	18.6	23.6	28.0	24.8	23.6	52.8
	上記以外の20歳未満の子供・孫がいる	664	4.5	12.8	28.8	27.3	26.7	17.3	53.9
	20歳未満の子供・孫はいない	1,581	4.4	17.9	32.8	22.6	22.4	22.3	45.0
保育所、学童クラブ	保育所・学童クラブに子供を預けている	98	7.1	16.3	35.7	20.4	20.4	23.5	40.8
	保育所・学童クラブに子供を預けていない	329	4.3	17.6	29.8	24.9	23.4	21.9	48.3
通所の介護サービス利用者	通所の介護サービスを利用している家族がいる	206	5.8	16.0	28.6	26.2	23.3	21.8	49.5
	通所の介護サービスを利用している家族はいない	2,796	4.2	16.5	31.0	24.3	24.0	20.7	48.3
慢性的な疾患	慢性的な疾患により通院（入院）している	229	4.4	20.5	23.1	26.6	25.3	24.9	52.0
	慢性的な疾患により通院（入院）していない	2,773	4.3	16.2	31.4	24.2	23.9	20.4	48.1

図 10-2　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用
（百貨店、マーケット（食品等生活関連売場を除く））

【感染リスクが高い施設（学校（大学等を除く）、保育所、通所施設等）】

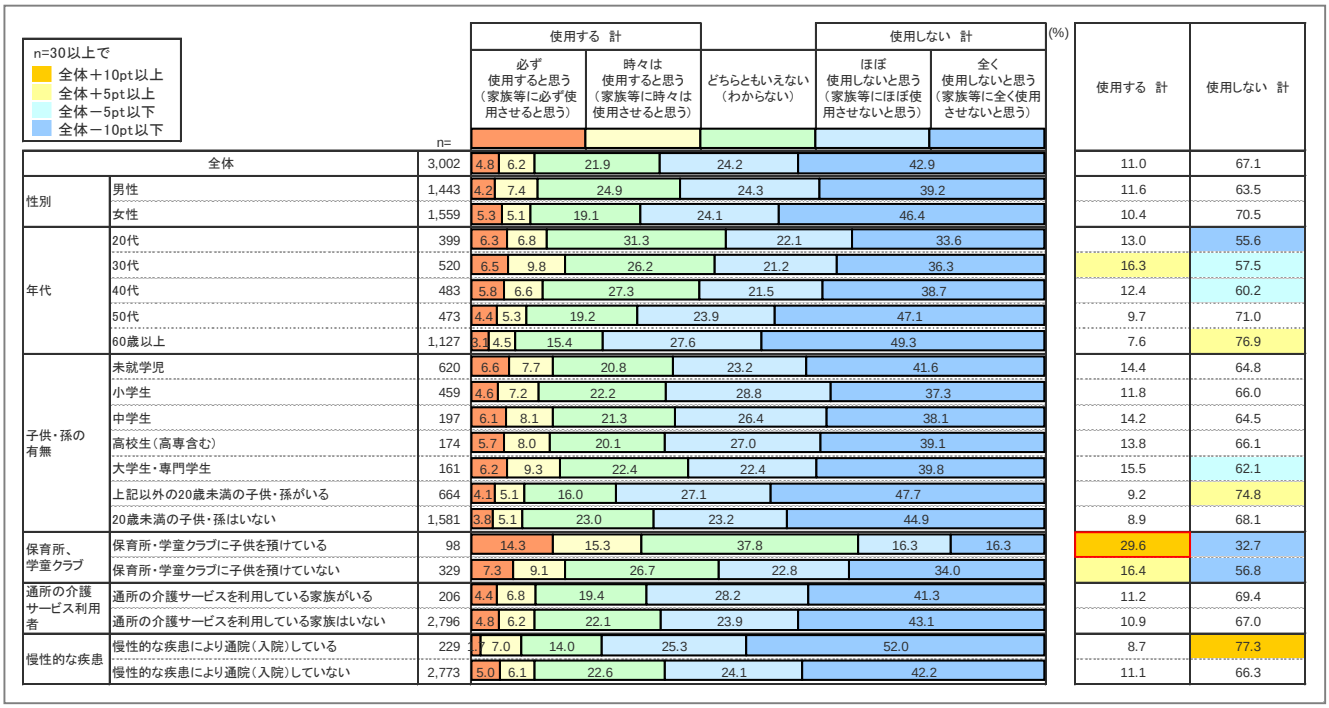


図 10-3　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用
（感染リスクが高い施設（学校（大学等を除く）、保育所、通所施設等））

【大学、専修学校】

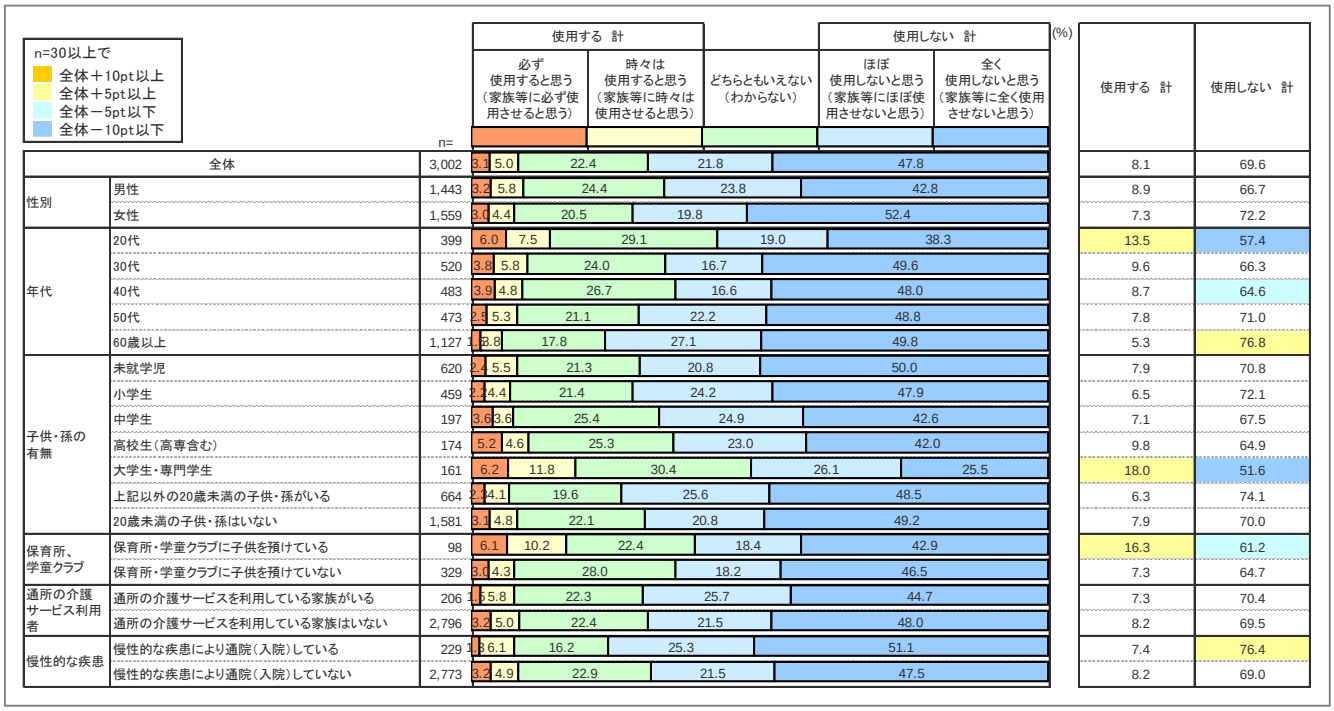


図 10-4　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用（大学、専修学校）

【劇場、映画館、博物館、図書館】

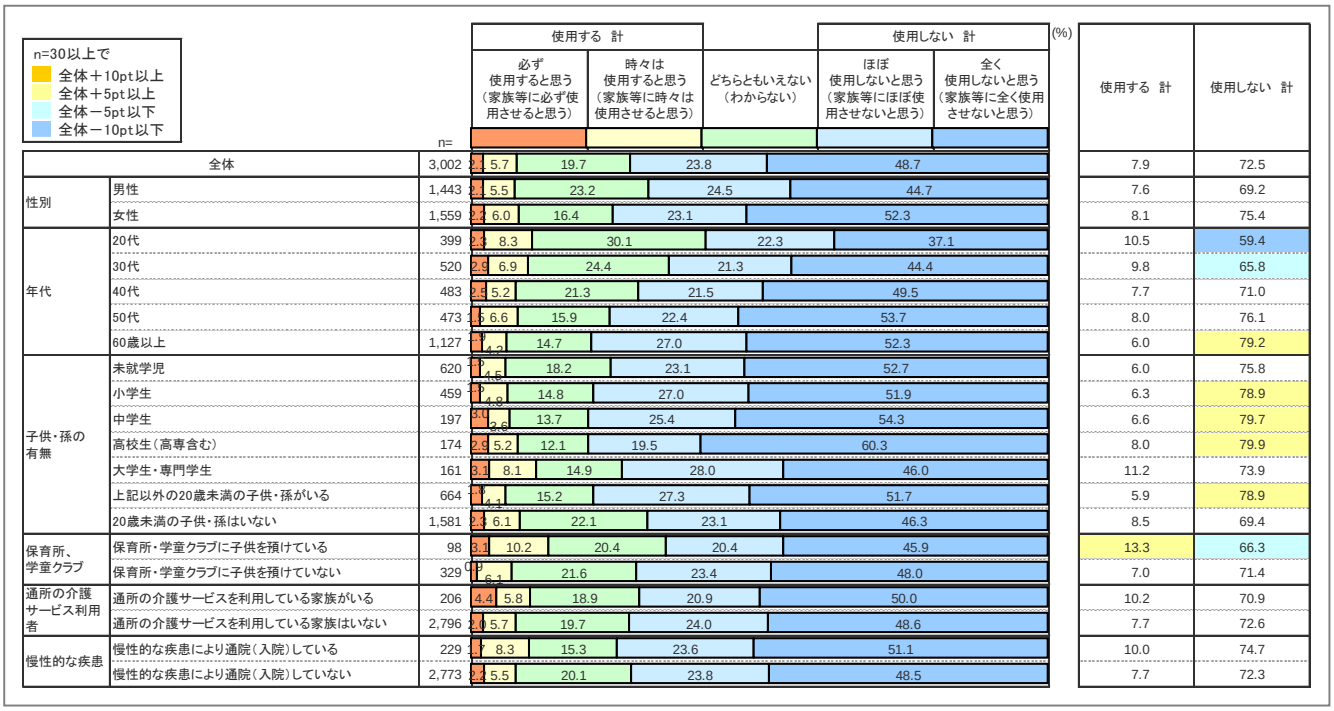


図 10-5　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用（劇場、映画館、博物館、図書館）

【ホテルの宴会場、集会所】

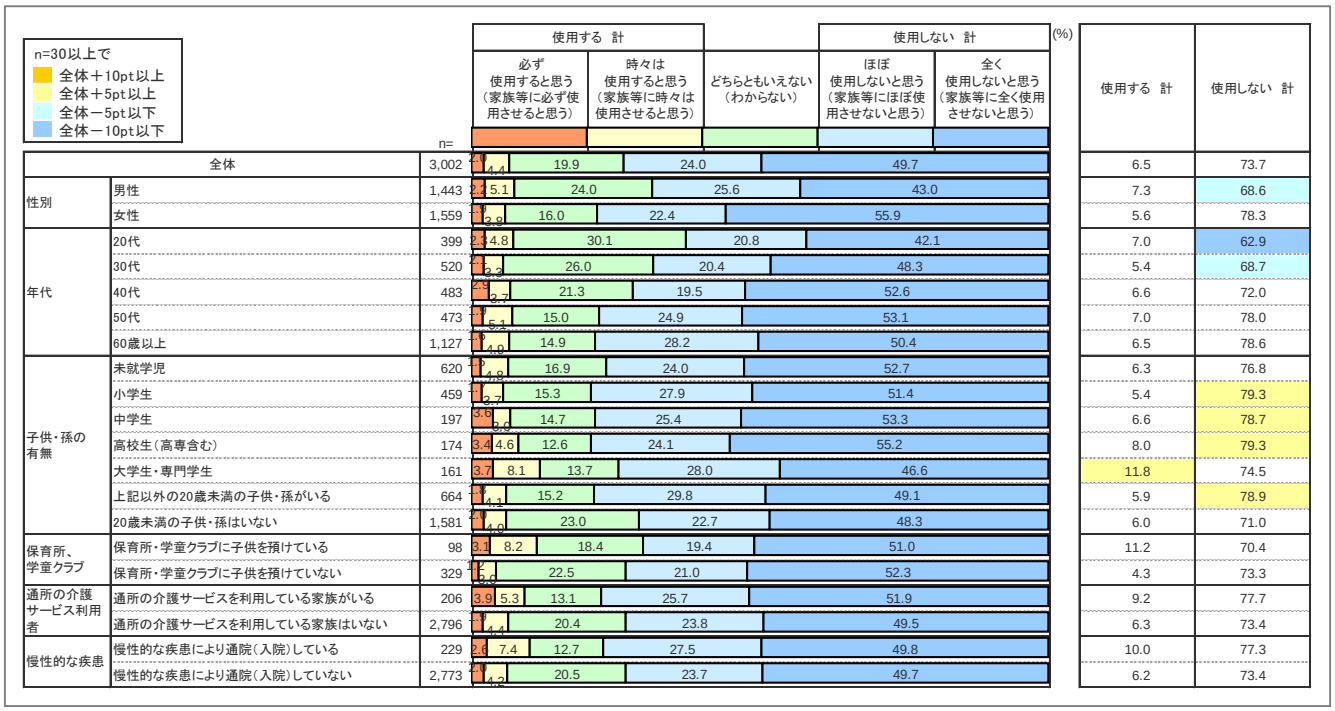


図 10-6　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用（ホテルの宴会場、集会所）

【教習所、学習塾】

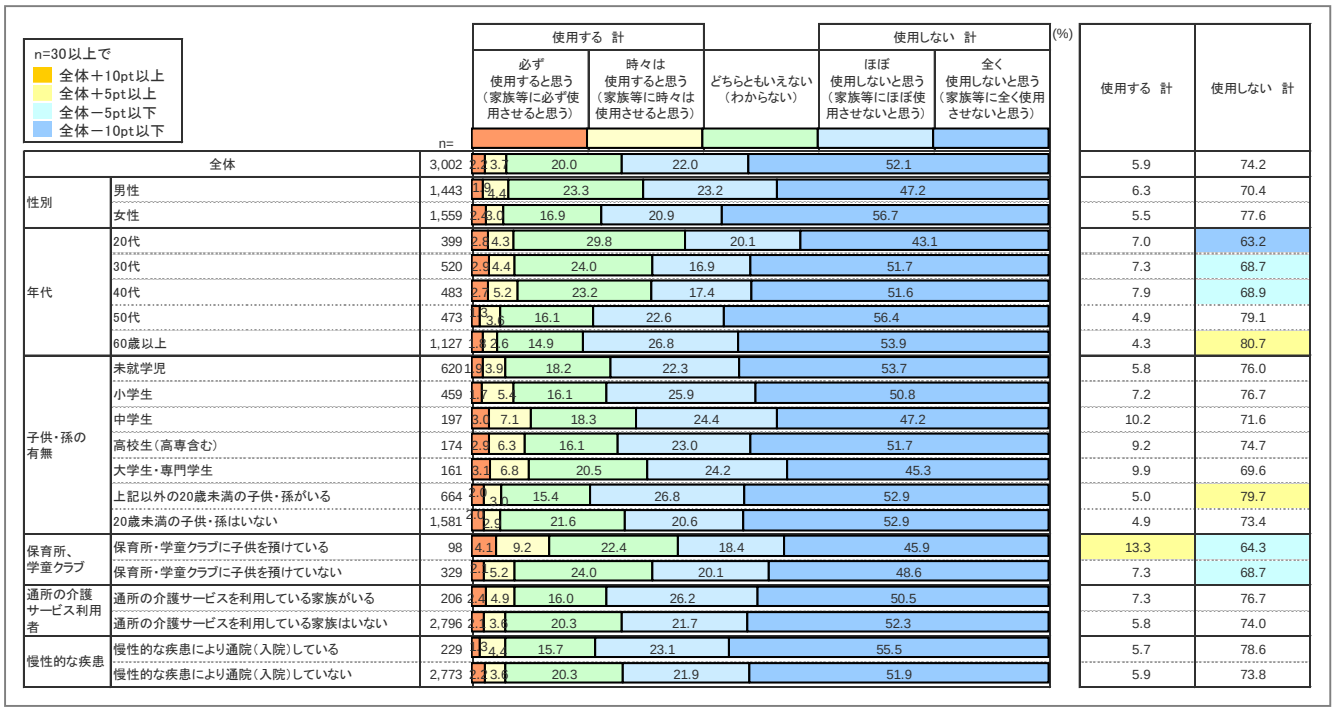


図 10-7　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用（教習所、学習塾）

【体育館、ボーリング場】

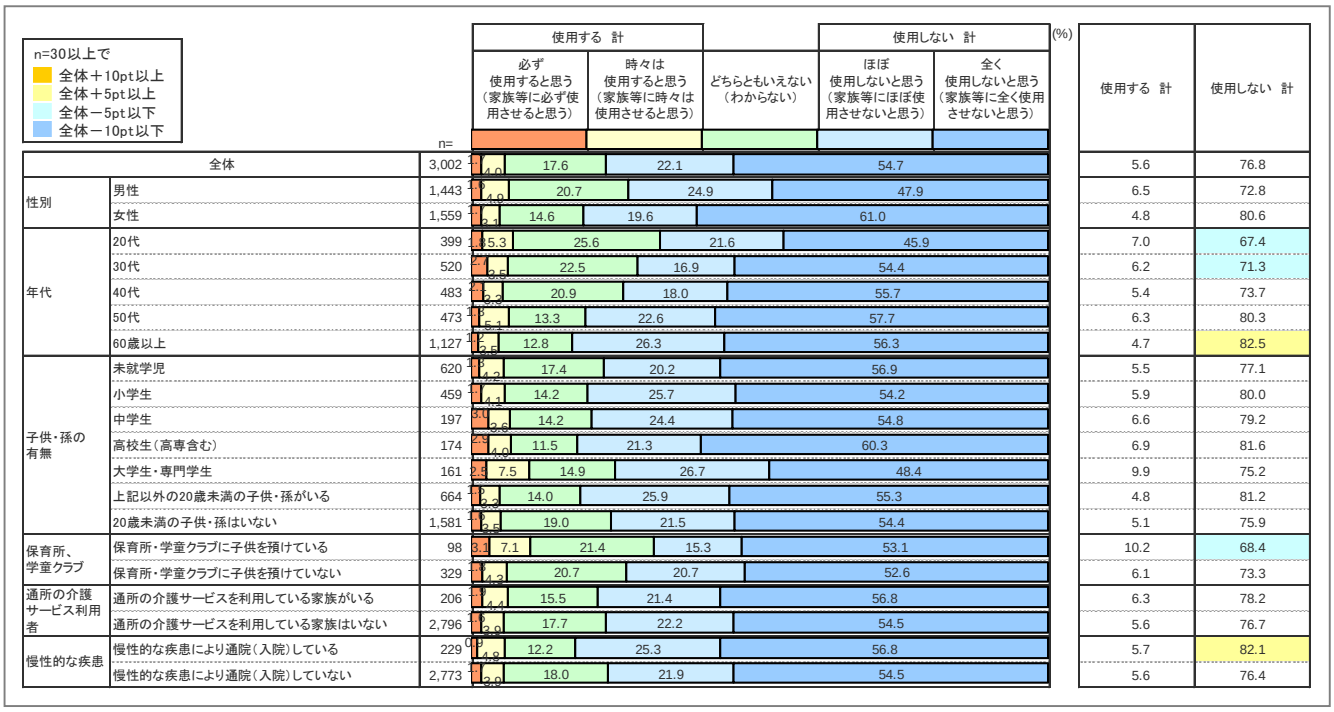


図 10-8　新型インフルエンザ等による外出自粛要請時の施設使用（体育館、ボーリング場）

（８）特定接種への賛同度

各業種の特定接種※への賛同度について、「賛同できる　計」（「とても賛同できる」＋「賛同できる」）が特に高かったのは、「新型インフルエンザ等に関する医療に従事する者」（77.5%）と「生命・健康に重大・緊急の影響がある医療に従事する者」（76.5%）で、70%を超える。また「とても賛同できる」と回答した割合をみても 40%程度と高い。その他の業種についても、全ての区分で「賛同できる　計」の割合が「賛同できない　計」よりも高くなっている。（図 11-1）

Q15　以下に掲げる各業種の従事者に特定接種を実施する場合どの程度賛同できますか。（各 SA）

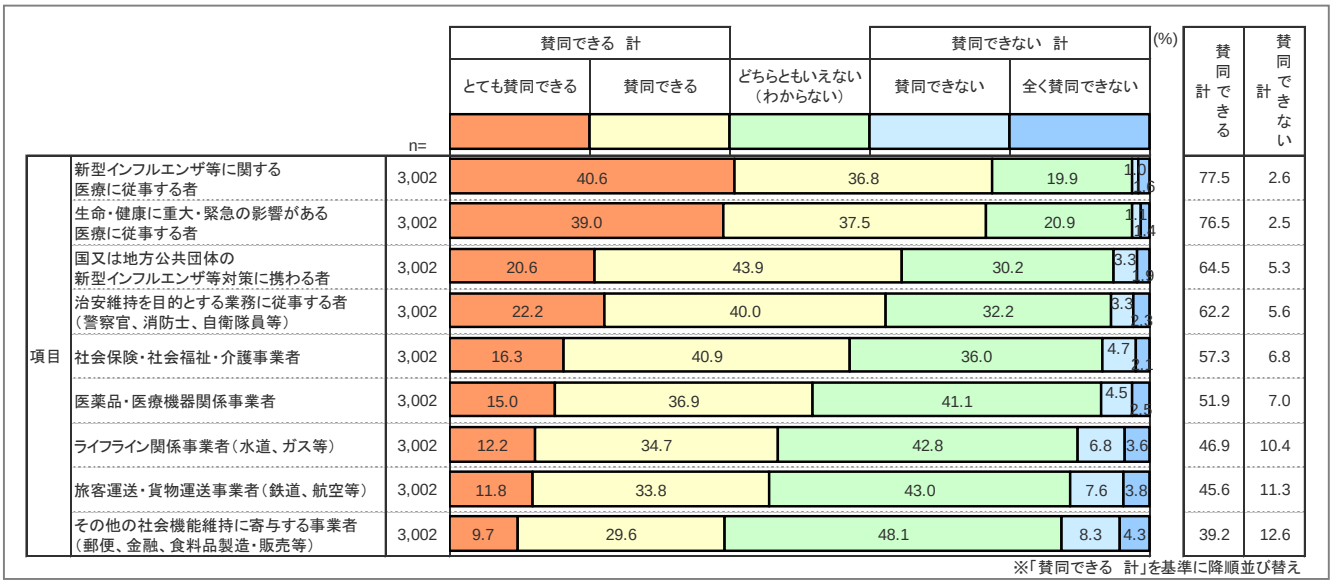


図 11-1　特定接種への賛同度

※特定接種…新型インフルエンザ等対策特別措置法では、医療提供体制や国民生活・経済を守るために、一般の国民より先に、医療関係者や国民生活・経済の安定に寄与する事業者などにワクチン接種する仕組み（「特定接種」）を設けています。

なお、選択肢の項目は、基本的に「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」で記載されている業種をもとに列挙したものです。

＜慢性的な疾患別＞にみると、特に「生命・健康に重大・緊急の影響がある医療に従事する者」では、「慢性的な疾患により通院（入院）している」における「賛同できる　計」が最も高く 86.9%。（図 11-3）

【新型インフルエンザ等に関する医療に従事する者】

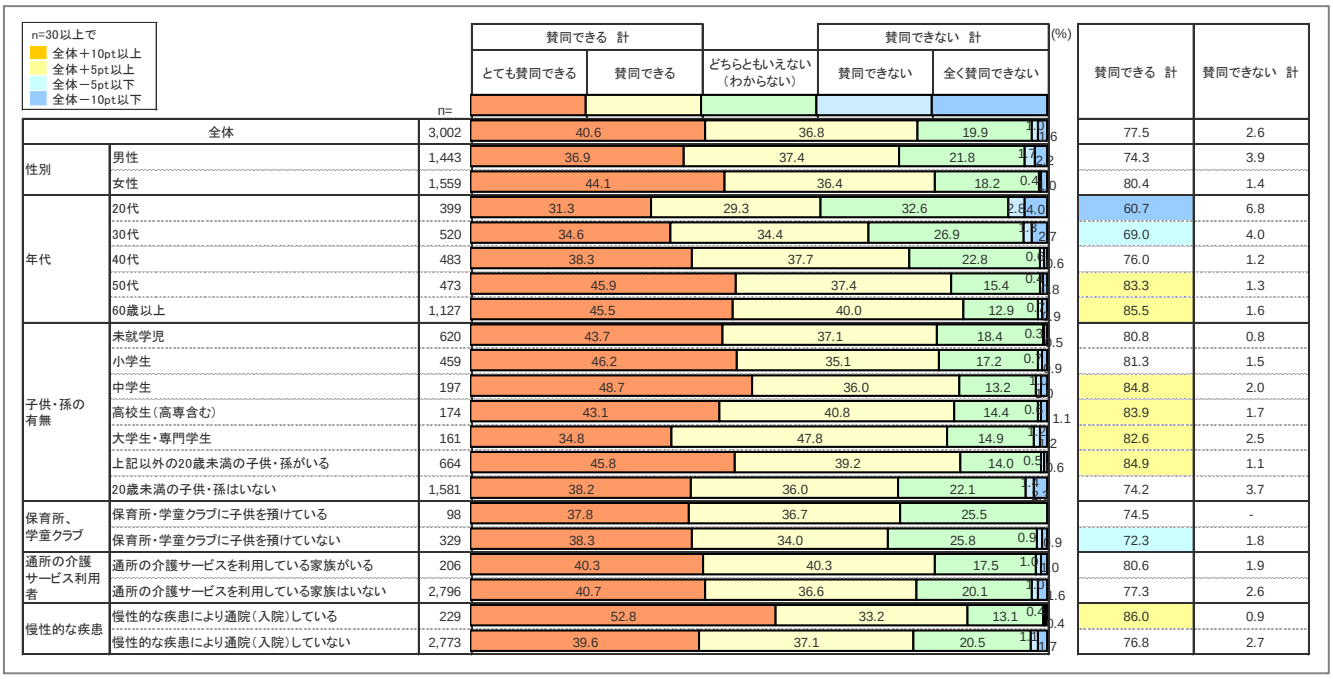


図 11-2　特定接種への賛同度
（新型インフルエンザ等に関する医療に従事する者）

【生命・健康に重大・緊急の影響がある医療に従事する者】

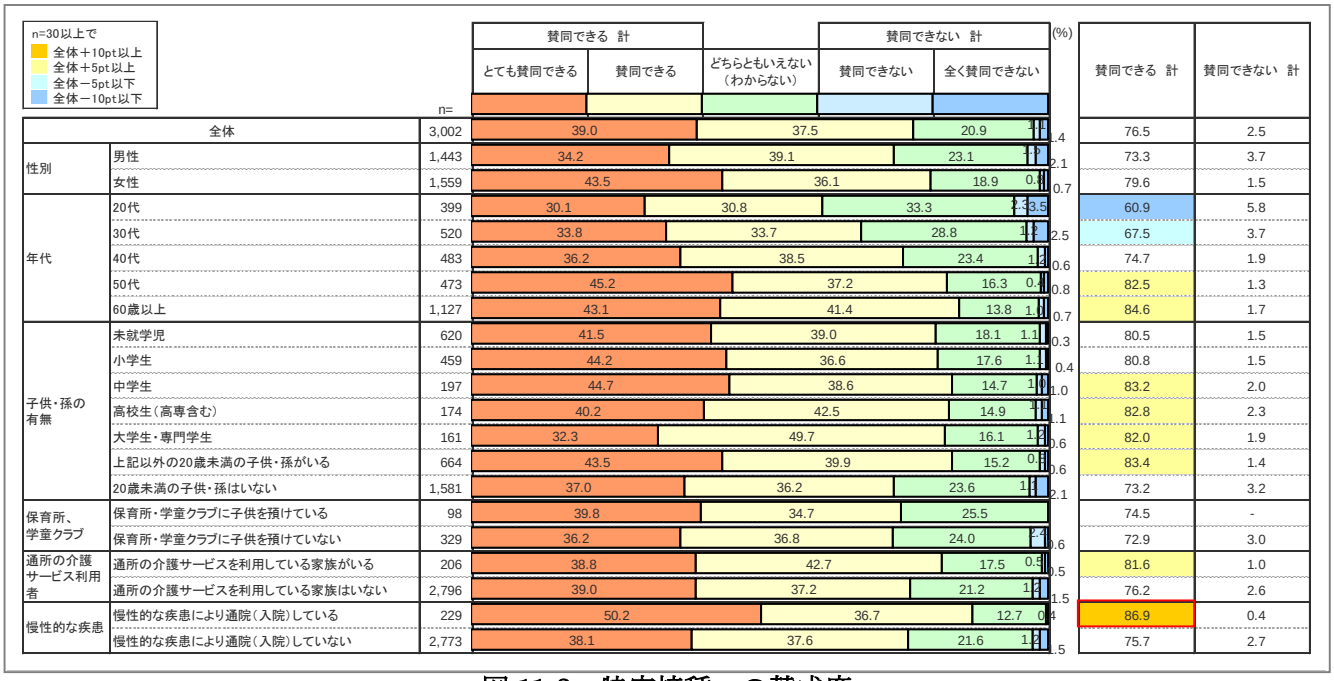


図 11-3　特定接種への賛成度

（生命・健康に重大・緊急の影響がある医療に従事する者）

【国又は地方公共団体の新型インフルエンザ等対策に携わる者】

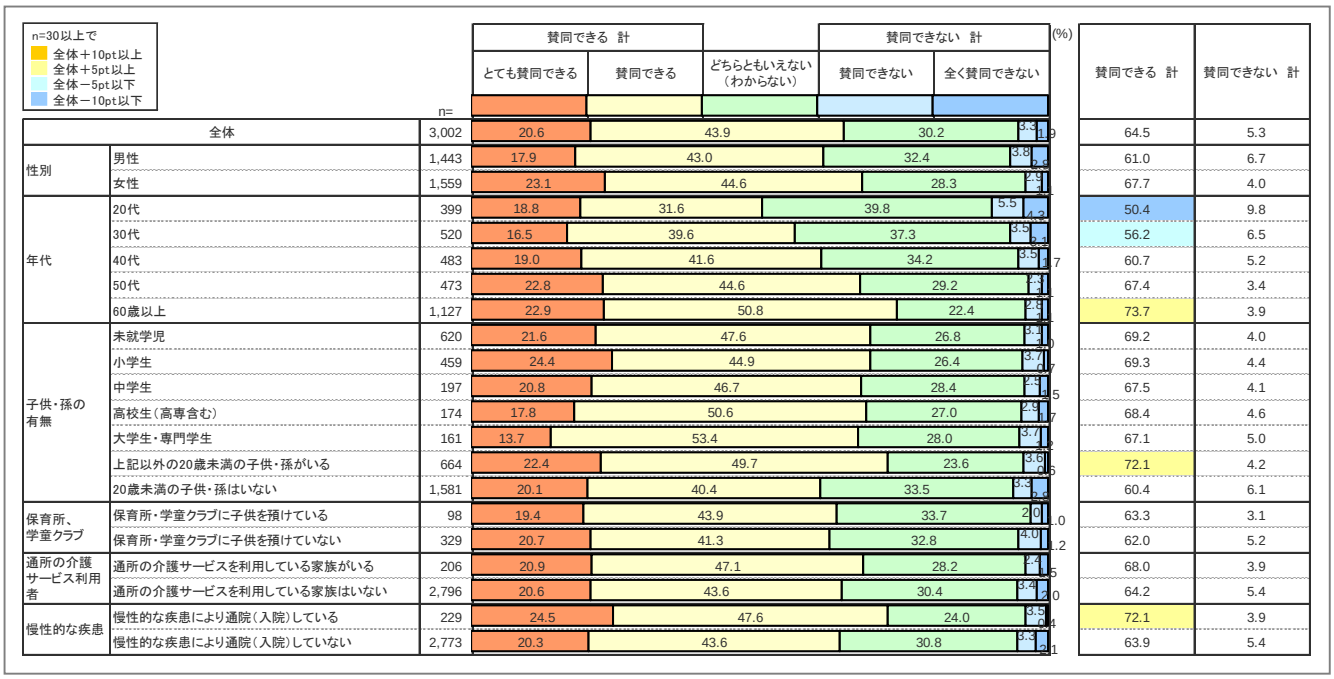


図 11-4　特定接種への賛成度

（国又は地方公共団体の新型インフルエンザ等対策に携わる者）

【治安維持を目的とする業務に従事する者（警察官、消防士、自衛隊員等）】

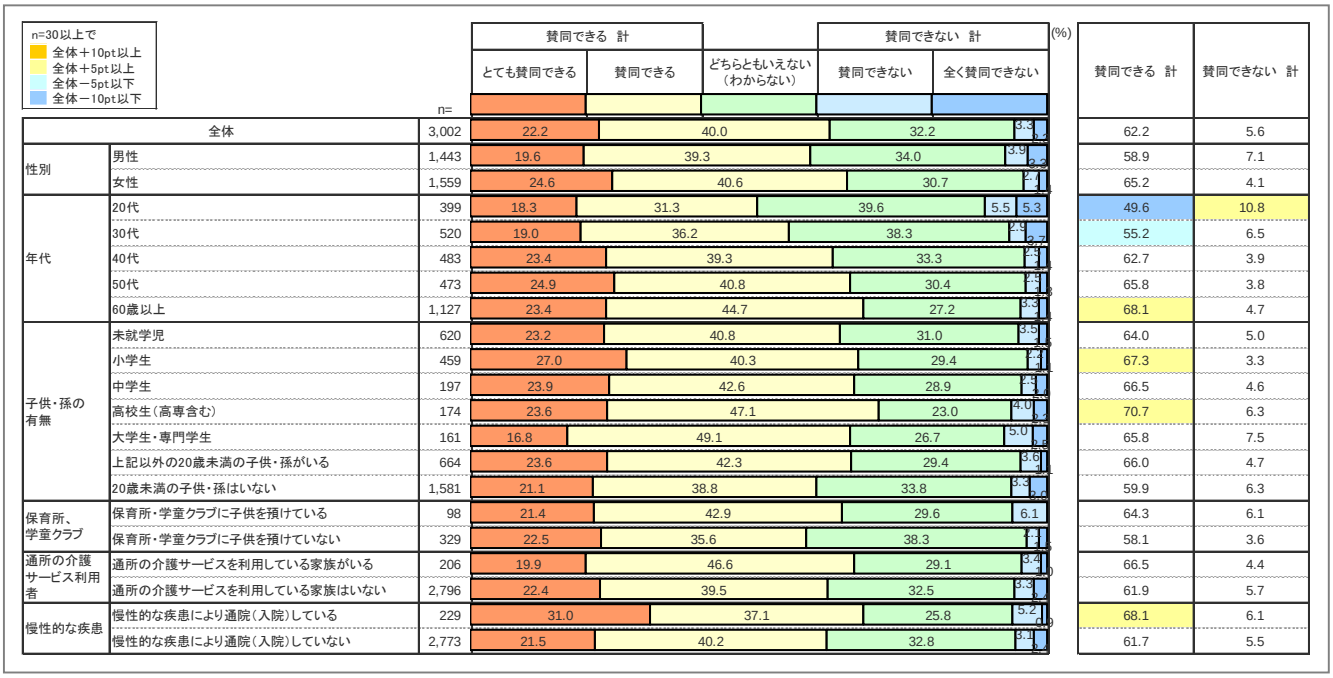


図 11-5　特定接種への賛成度

（治安維持を目的とする業務に従事する者（警察官、消防士、自衛隊員等））

【社会保険・社会福祉・介護事業者】

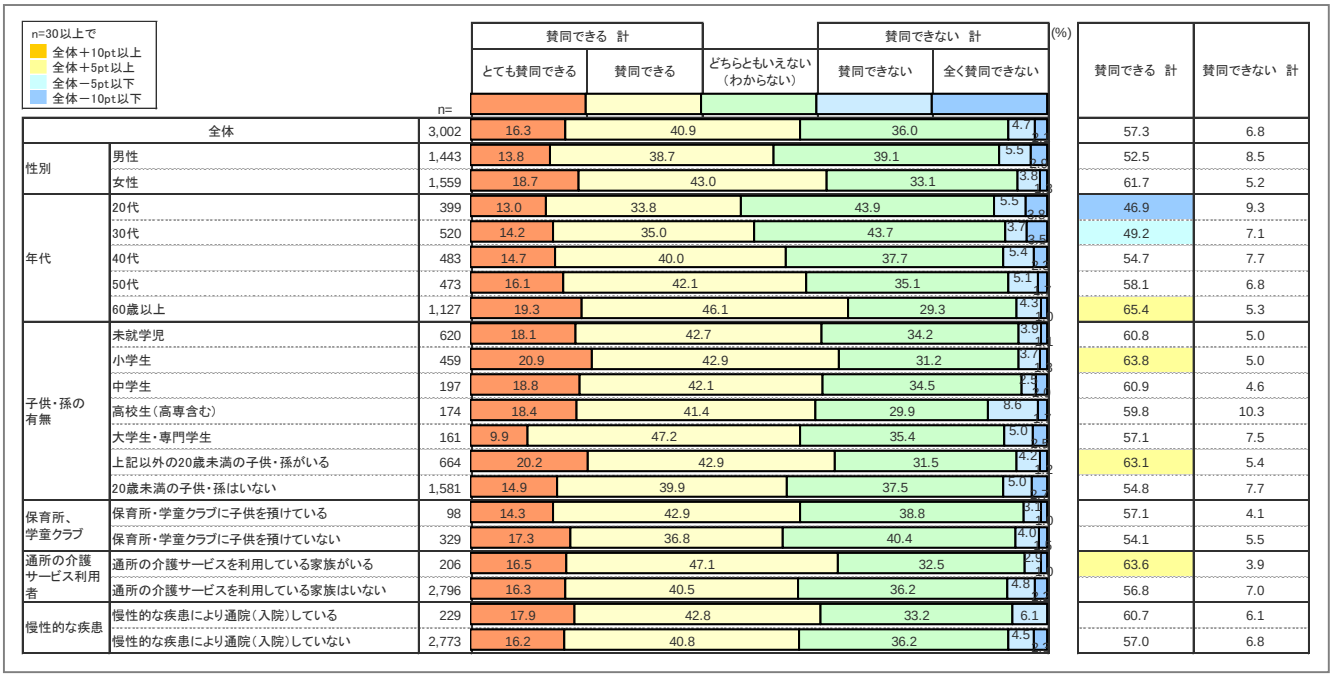
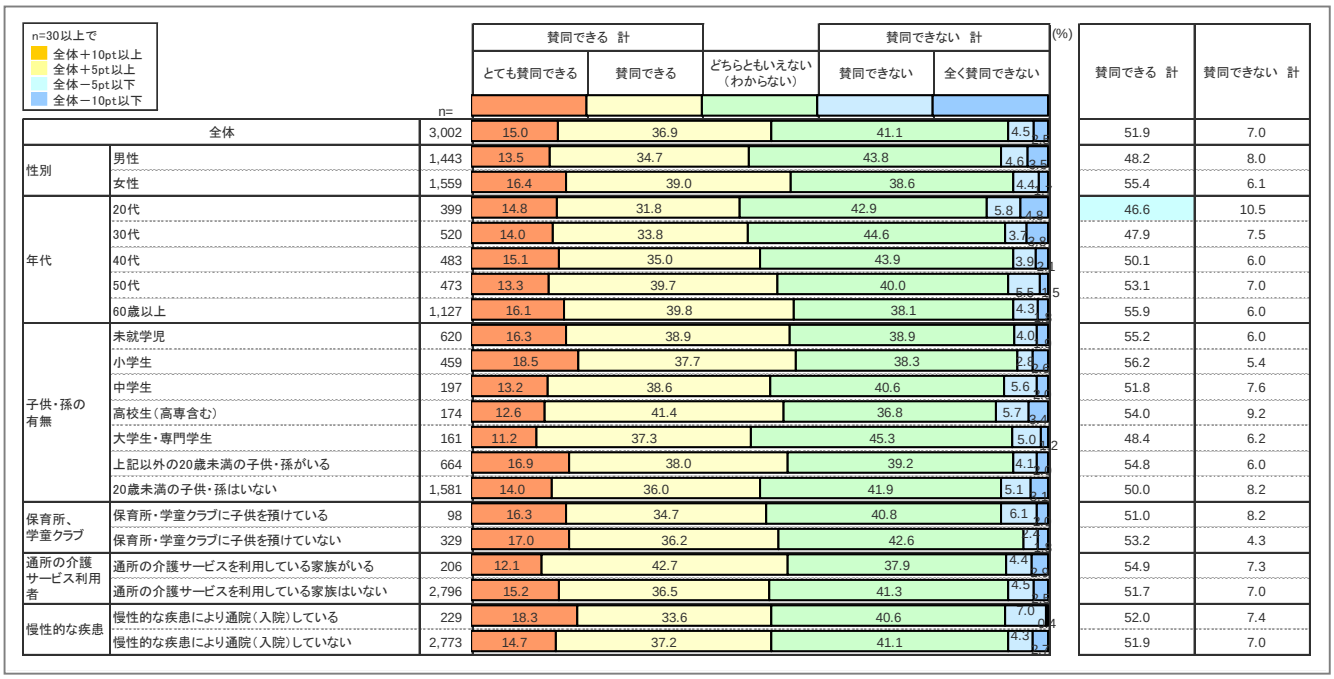


図 11-6　特定接種への賛成度

（治安維持を目的とする業務に従事する者（社会保険・社会福祉・介護事業者））

【医薬品・医療機器関係事業者】

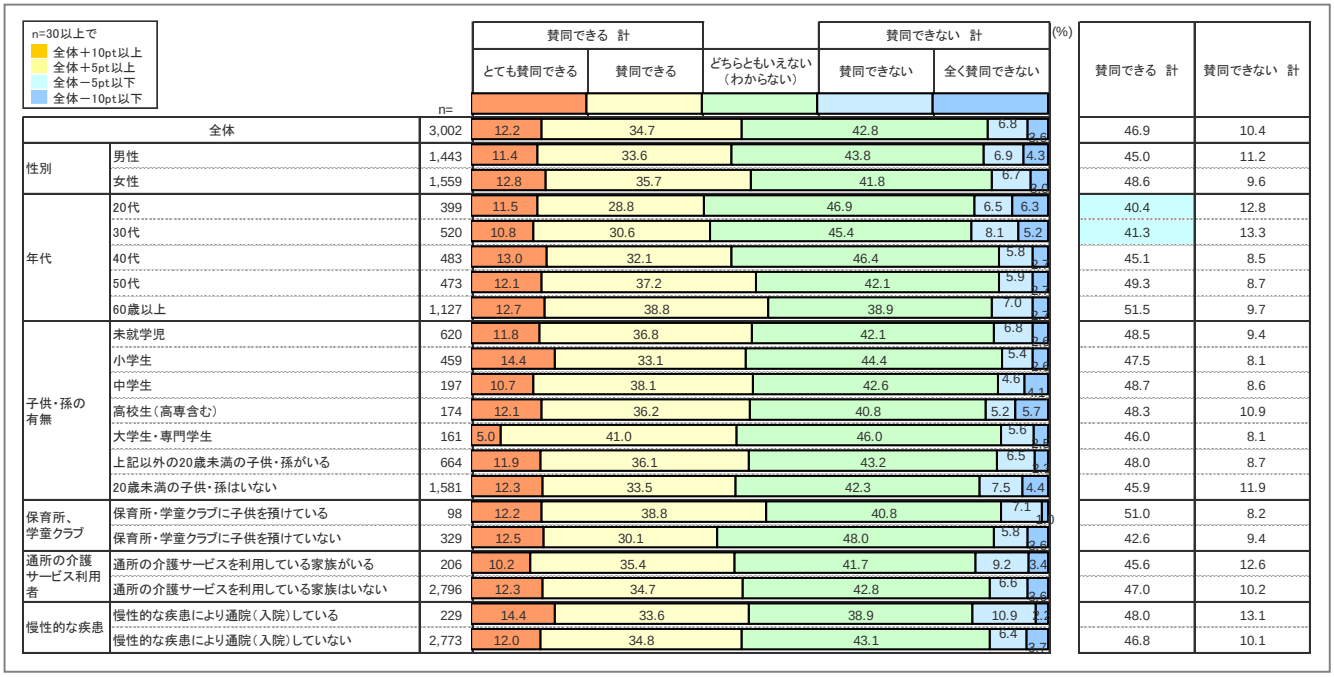


		n=	賛同できる 計		どちらともいえない（わからない）	賛同できない 計		賛同できる 計	賛同できない 計
			とても賛同できる	賛同できる		賛同できない	全く賛同できない		
全体		3,002	15.0	36.9	41.1	4.5	2.6	51.9	7.0
性別	男性	1,443	13.5	34.7	43.8	4.6	3.5	48.2	8.0
	女性	1,559	16.4	39.0	38.6	4.4	1.6	55.4	6.1
年代	20代	399	14.8	31.8	42.9	5.8	4.8	46.6	10.5
	30代	520	14.0	33.8	44.6	3.7	2.8	47.9	7.5
	40代	483	15.1	35.0	43.9	3.9	2.1	50.1	6.0
	50代	473	13.3	39.7	40.0	5.5	1.5	53.1	7.0
	60歳以上	1,127	16.1	39.8	38.1	4.3	1.7	55.9	6.0
子供・孫の有無	未就学児	620	16.3	38.9	38.9	4.0	1.9	55.2	6.0
	小学生	459	18.5	37.7	38.3	2.8	2.6	56.2	5.4
	中学生	197	13.2	38.6	40.6	5.6	1.5	51.8	7.6
	高校生（高専含む）	174	12.6	41.4	36.8	5.7	3.4	54.0	9.2
	大学生・専門学生	161	11.2	37.3	45.3	5.0	1.2	48.4	6.2
	上記以外の20歳未満の子供・孫がいる	664	16.9	38.0	39.2	4.1	1.8	54.8	6.0
	20歳未満の子供・孫はいない	1,581	14.0	36.0	41.9	5.1	3.1	50.0	8.2
保育所、学童クラブ	保育所・学童クラブに子供を預けている	98	16.3	34.7	40.8	6.1	2.0	51.0	8.2
	保育所・学童クラブに子供を預けていない	329	17.0	36.2	42.6	2.3	1.8	53.2	4.3
通所の介護サービス利用者	通所の介護サービスを利用している家族がいる	206	12.1	42.7	37.9	4.4	2.9	54.9	7.3
	通所の介護サービスを利用している家族はいない	2,796	15.2	36.5	41.3	4.5	2.5	51.7	7.0
慢性的な疾患	慢性的な疾患により通院（入院）している	229	18.3	33.6	40.6	7.0	0.4	52.0	7.4
	慢性的な疾患により通院（入院）していない	2,773	14.7	37.2	41.1	4.3	2.7	51.9	7.0

図 11-7　特定接種への賛成度

（医薬品・医療機器関係事業者）

【ライフライン関係事業者（水道、ガス等）】

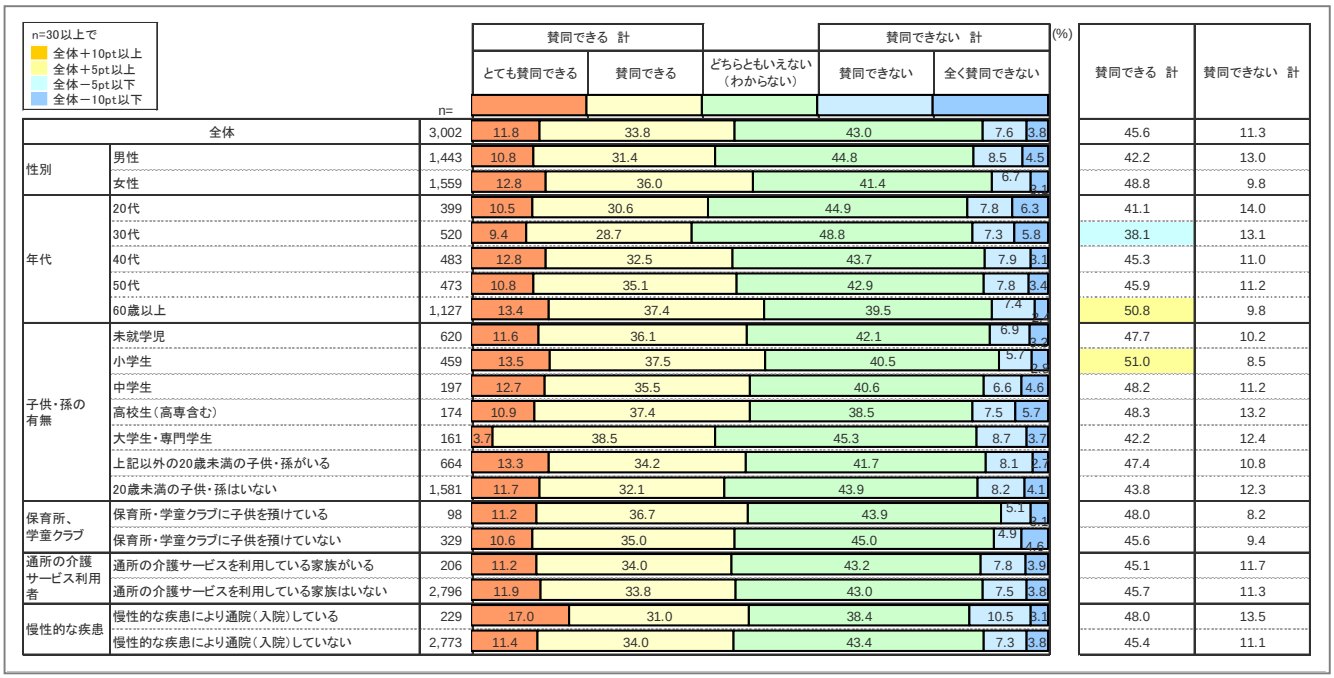


		n=	賛同できる 計		どちらともいえない（わからない）	賛同できない 計		賛同できる 計	賛同できない 計
			とても賛同できる	賛同できる		賛同できない	全く賛同できない		
全体		3,002	12.2	34.7	42.8	6.8	2.6	46.9	10.4
性別	男性	1,443	11.4	33.6	43.8	6.9	4.3	45.0	11.2
	女性	1,559	12.8	35.7	41.8	6.7	2.6	48.6	9.6
年代	20代	399	11.5	28.8	46.9	6.5	6.3	40.4	12.8
	30代	520	10.8	30.6	45.4	8.1	5.2	41.3	13.3
	40代	483	13.0	32.1	46.4	5.8	2.7	45.1	8.5
	50代	473	12.1	37.2	42.1	5.9	2.7	49.3	8.7
	60歳以上	1,127	12.7	38.8	38.9	7.0	2.7	51.5	9.7
子供・孫の有無	未就学児	620	11.8	36.8	42.1	6.8	2.6	48.5	9.4
	小学生	459	14.4	33.1	44.4	5.4	2.6	47.5	8.1
	中学生	197	10.7	38.1	42.6	4.6	4.1	48.7	8.6
	高校生（高専含む）	174	12.1	36.2	40.8	5.2	5.7	48.3	10.9
	大学生・専門学生	161	5.0	41.0	46.0	5.6	2.8	46.0	8.1
	上記以外の20歳未満の子供・孫がいる	664	11.9	36.1	43.2	6.5	2.7	48.0	8.7
	20歳未満の子供・孫はいない	1,581	12.3	33.5	42.3	7.5	4.4	45.9	11.9
保育所、学童クラブ	保育所・学童クラブに子供を預けている	98	12.2	38.8	40.8	7.1	1.0	51.0	8.2
	保育所・学童クラブに子供を預けていない	329	12.5	30.1	48.0	5.8	2.6	42.6	9.4
通所の介護サービス利用者	通所の介護サービスを利用している家族がいる	206	10.2	35.4	41.7	9.2	3.4	45.6	12.6
	通所の介護サービスを利用している家族はいない	2,796	12.3	34.7	42.8	6.6	2.6	47.0	10.2
慢性的な疾患	慢性的な疾患により通院（入院）している	229	14.4	33.6	38.9	10.9	2.2	48.0	13.1
	慢性的な疾患により通院（入院）していない	2,773	12.0	34.8	43.1	6.4	3.7	46.8	10.1

図 11-8　特定接種への賛成度

（ライフライン関係事業者（水道、ガス等））

【旅客運送・貨物運送事業者（鉄道、航空等）】

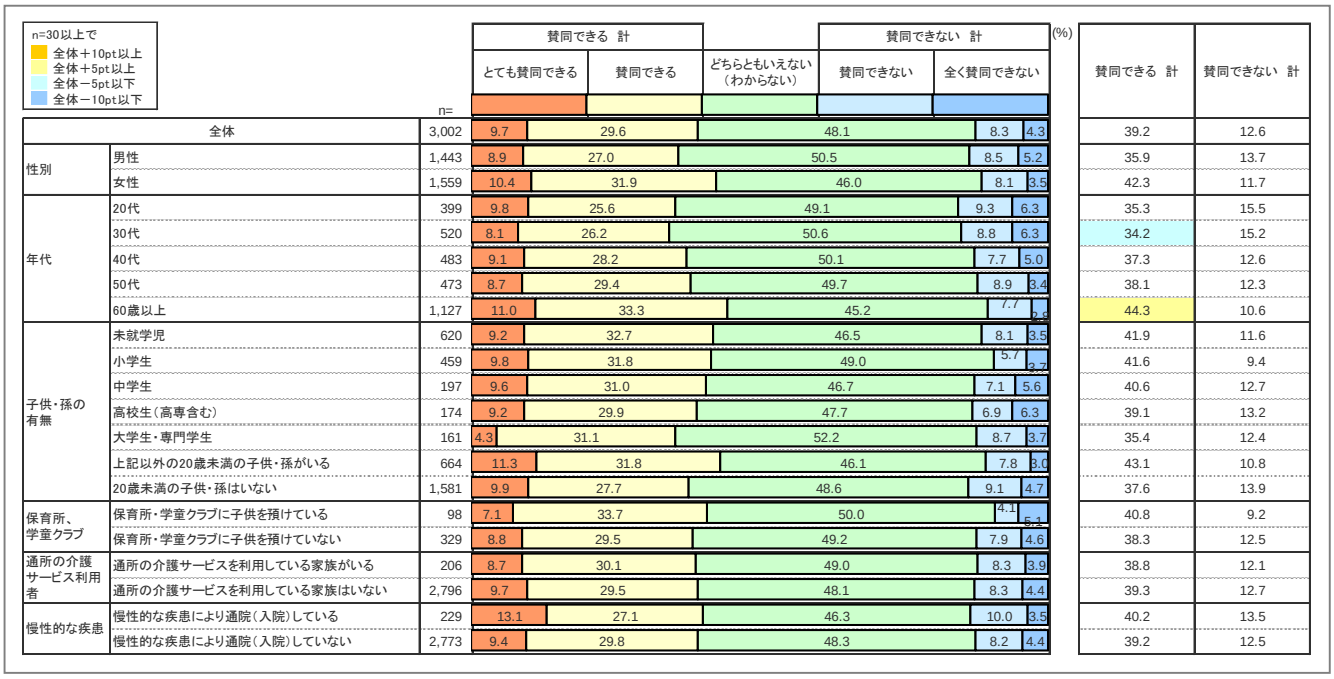


		n=	賛同できる 計		どちらともいえない（わからない）	賛同できない 計		賛同できる 計	賛同できない 計
			とても賛同できる	賛同できる		賛同できない	全く賛同できない		
全体		3,002	11.8	33.8	43.0	7.6	3.8	45.6	11.3
性別	男性	1,443	10.8	31.4	44.8	8.5	4.5	42.2	13.0
	女性	1,559	12.8	36.0	41.4	6.7	3.1	48.8	9.8
年代	20代	399	10.5	30.6	44.9	7.8	6.3	41.1	14.0
	30代	520	9.4	28.7	48.8	7.3	5.8	38.1	13.1
	40代	483	12.8	32.5	43.7	7.9	3.1	45.3	11.0
	50代	473	10.8	35.1	42.9	7.8	3.4	45.9	11.2
	60歳以上	1,127	13.4	37.4	39.5	7.4	2.3	50.8	9.8
子供・孫の有無	未就学児	620	11.6	36.1	42.1	6.9	3.3	47.7	10.2
	小学生	459	13.5	37.5	40.5	5.7	2.8	51.0	8.5
	中学生	197	12.7	35.5	40.6	6.6	4.6	48.2	11.2
	高校生（高専含む）	174	10.9	37.4	38.5	7.5	5.7	48.3	13.2
	大学生・専門学生	161	3.7	38.5	45.3	8.7	3.7	42.2	12.4
	上記以外の20歳未満の子供・孫がいる	664	13.3	34.2	41.7	8.1	2.7	47.4	10.8
	20歳未満の子供・孫はいない	1,581	11.7	32.1	43.9	8.2	4.1	43.8	12.3
保育所、学童クラブ	保育所・学童クラブに子供を預けている	98	11.2	36.7	43.9	5.1	3.1	48.0	8.2
	保育所・学童クラブに子供を預けていない	329	10.6	35.0	45.0	4.9	4.5	45.6	9.4
通所の介護サービス利用者	通所の介護サービスを利用している家族がいる	206	11.2	34.0	43.2	7.8	3.9	45.1	11.7
	通所の介護サービスを利用している家族はいない	2,796	11.9	33.8	43.0	7.5	3.8	45.7	11.3
慢性的な疾患	慢性的な疾患により通院（入院）している	229	17.0	31.0	38.4	10.5	3.1	48.0	13.5
	慢性的な疾患により通院（入院）していない	2,773	11.4	34.0	43.4	7.3	3.8	45.4	11.1

図 11-9　特定接種への賛成度

（旅客運送・貨物運送事業者（鉄道、航空等））

【その他の社会機能維持に寄与する事業者（郵便、金融、食料品製造・販売等）】



		n=	賛同できる 計		どちらともいえない（わからない）	賛同できない 計		賛同できる 計	賛同できない 計
			とても賛同できる	賛同できる		賛同できない	全く賛同できない		
全体		3,002	9.7	29.6	48.1	8.3	4.3	39.2	12.6
性別	男性	1,443	8.9	27.0	50.5	8.5	5.2	35.9	13.7
	女性	1,559	10.4	31.9	46.0	8.1	3.5	42.3	11.7
年代	20代	399	9.8	25.6	49.1	9.3	6.3	35.3	15.5
	30代	520	8.1	26.2	50.6	8.8	6.3	34.2	15.2
	40代	483	9.1	28.2	50.1	7.7	5.0	37.3	12.6
	50代	473	8.7	29.4	49.7	8.9	3.4	38.1	12.3
	60歳以上	1,127	11.0	33.3	45.2	7.7	2.8	44.3	10.6
子供・孫の有無	未就学児	620	9.2	32.7	46.5	8.1	3.5	41.9	11.6
	小学生	459	9.8	31.8	49.0	5.7	2.7	41.6	9.4
	中学生	197	9.6	31.0	46.7	7.1	5.6	40.6	12.7
	高校生（高専含む）	174	9.2	29.9	47.7	6.9	6.3	39.1	13.2
	大学生・専門学生	161	4.3	31.1	52.2	8.7	3.7	35.4	12.4
	上記以外の20歳未満の子供・孫がいる	664	11.3	31.8	46.1	7.8	3.0	43.1	10.8
	20歳未満の子供・孫はいない	1,581	9.9	27.7	48.6	9.1	4.7	37.6	13.9
保育所、学童クラブ	保育所・学童クラブに子供を預けている	98	7.1	33.7	50.0	4.1	5.1	40.8	9.2
	保育所・学童クラブに子供を預けていない	329	8.8	29.5	49.2	7.9	4.6	38.3	12.5
通所の介護サービス利用者	通所の介護サービスを利用している家族がいる	206	8.7	30.1	49.0	8.3	3.9	38.8	12.1
	通所の介護サービスを利用している家族はいない	2,796	9.7	29.5	48.1	8.3	4.4	39.3	12.7
慢性的な疾患	慢性的な疾患により通院（入院）している	229	13.1	27.1	46.3	10.0	3.5	40.2	13.5
	慢性的な疾患により通院（入院）していない	2,773	9.4	29.8	48.3	8.2	4.4	39.2	12.5

図 11-10　特定接種への賛成度

（その他の社会機能維持に寄与する事業者（郵便、金融、食料品製造・販売等））

（9）特定接種に適切だと考える人数

特定の職業の方に一般住民より先にワクチンを接種する場合、どの程度の人数が妥当か、という設問に対しては、「300 万人程度」（17.9%）、「600 万人程度」（17.1%）、「1,000 万人程度」（15.6%）の割合が高い。ただし、「わからない」という回答が 37.7%を占める。（図 12-1）

Q16　医療提供体制の維持や国民生活・経済の安定に寄与するため、特定の業種の方に対して、一般住民より先に接種する場合、どの程度の人数が適当だと考えますか。(SA)

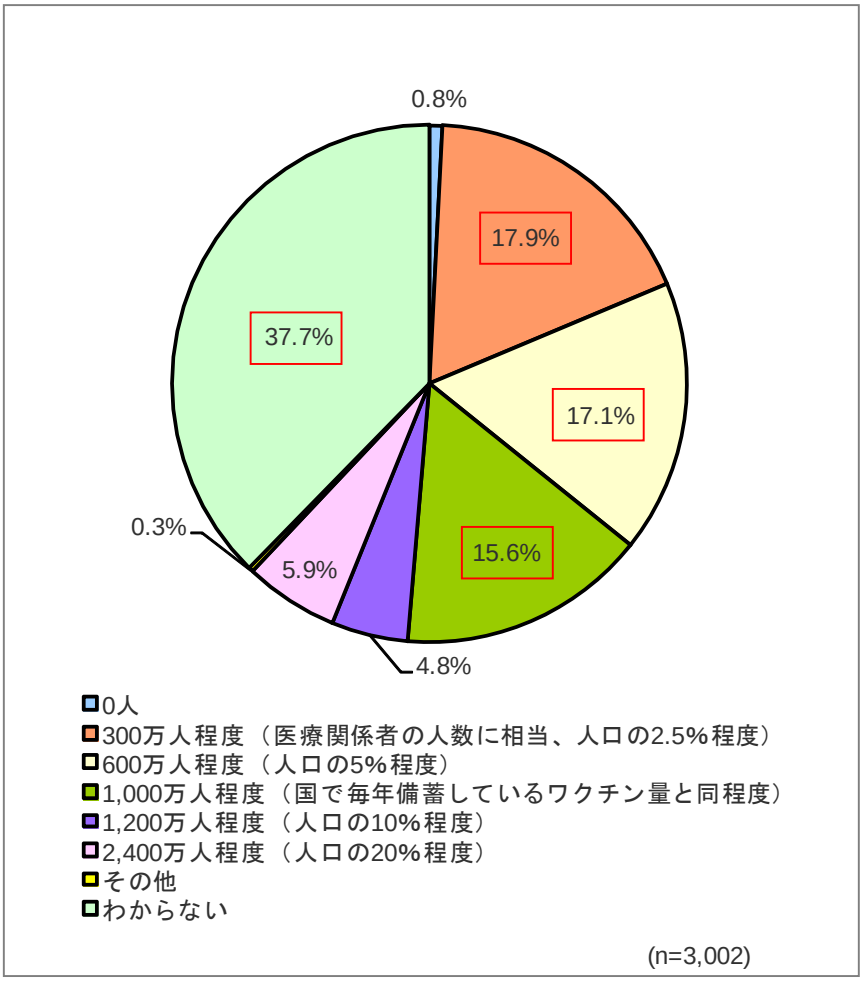


図 12-1　特定接種に適切だと考える人数

「その他」「わからない」を除く回答者に限定して、「０人」も含めた特定接種の適当な人数を加重平均すると、822 万人となる。（Table1）

＜性別＞にみると、『女性』での平均人数は 839.6 万人となっており、『男性』よりも高い。

＜年代別＞でみると、『40 代』が最も高く 867.7 万人となる。（図 12-2）

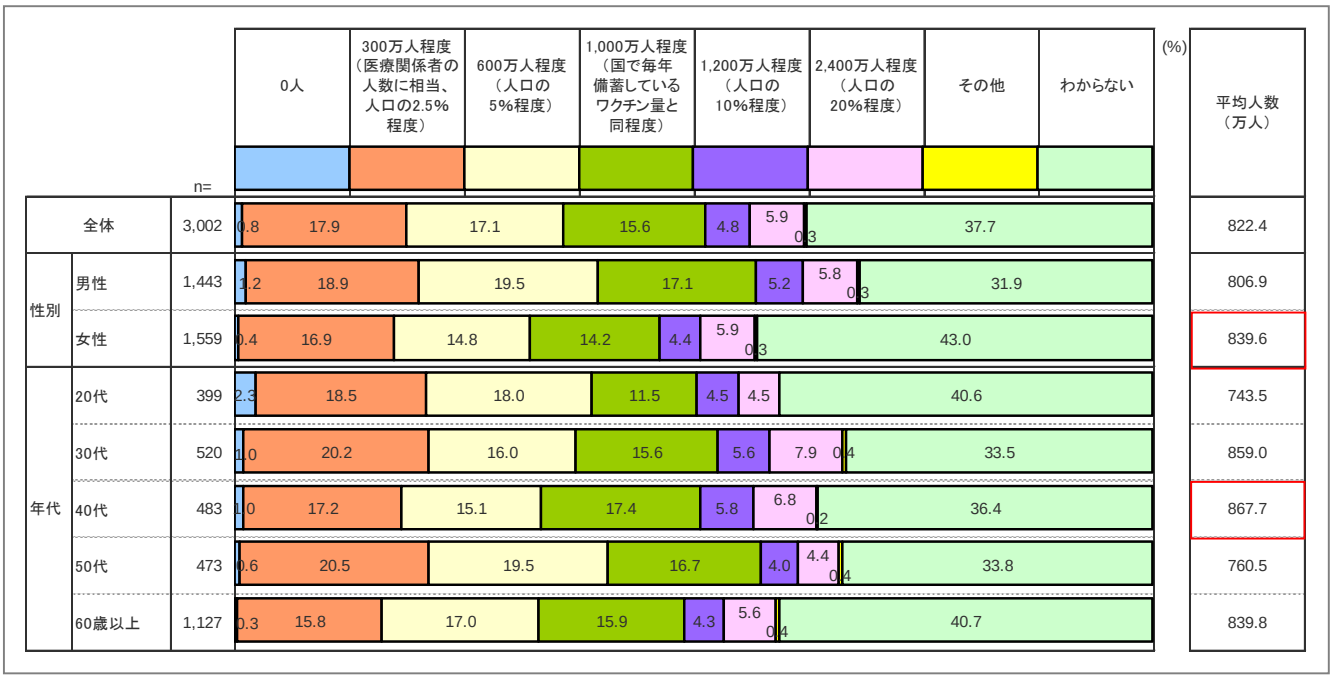


図 12-2　特定接種に適切だと考える人数（性別・年代別）

※平均人数：「その他」「わからない」を除く回答者に限定して、「０人」も含めた特定接種の適当な人数を、加重平均した数字。

人数（万人）A	0	300	600	1000	1200	2400	合計
回答人数（人）	25	537	512	469	143	176	1862
回答割合　B	0.01	0.29	0.27	0.25	0.08	0.09	
A×B（万人）	0	87	165	252	92	227	822

Table1　特定接種に適切だと考える人数の概要（加重平均）

＜子供・孫の有無別＞にみると、『20 歳未満の子供・孫はいない』では他に比べて平均人数がやや低く 796.5 万人。

＜保育所、学童クラブ別＞にみると、『保育所・学童クラブに子供を預けている』では平均人数が高く、1000 万人を超える。（図 12-4）

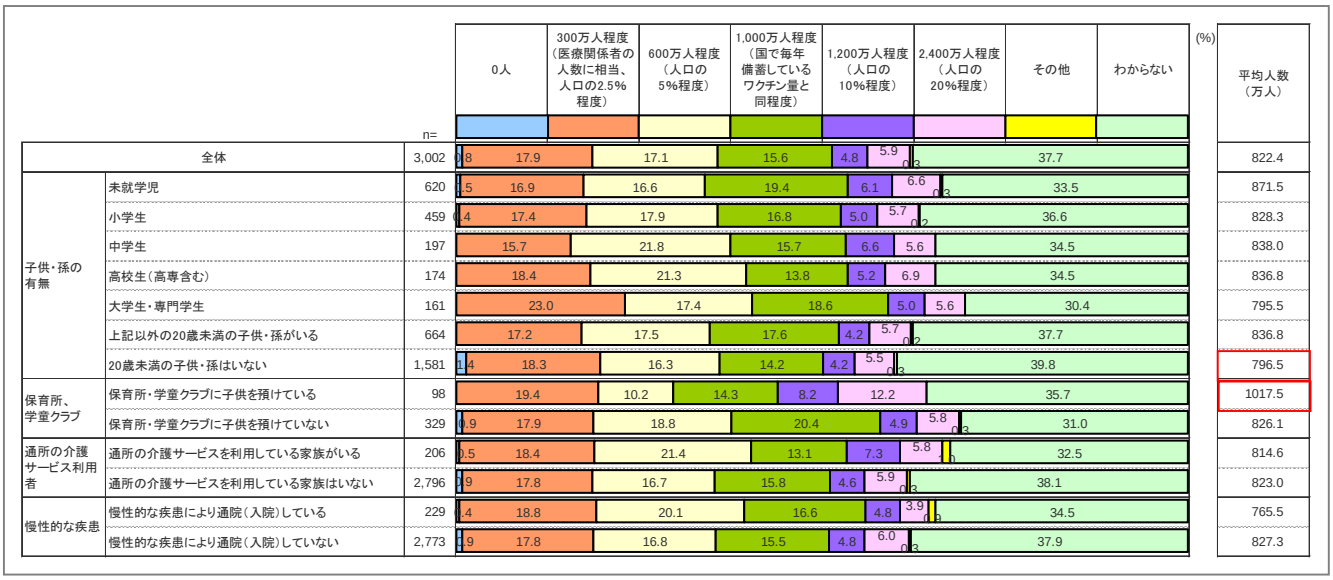


図 12-4　特定接種に適切だと考える人数

（子供・孫の有無別、保育所、学童クラブ別、通所の介護サービス利用者別、慢性的な疾患別）

（10）予防接種の優先順位の付け方

予防接種の優先順位の付け方について、「重症化、死亡を可能な限り抑えることに重点を置いた考え方」が最も高く 37.4%。次いで「重症化、死亡を可能な限り抑えることに重点をおきつつ、合わせて日本の将来を守ることにも重点を置く考え方」が高く 34.3%。（図 13-1）

Q17　特定接種以外の一般の住民に対する予防接種の実施に当たって、優先順位のつけ方としてあなたが妥当と考えるものはどれですか。(SA)

Ⅰ　医学的ハイリスク者※
Ⅱ　小児（15 歳未満）
Ⅲ　成人・若年者（15 歳以上 65 歳未満）
Ⅳ　高齢者（65 歳以上）
※医学的ハイリスク者とは・・・呼吸器疾患、心臓血管系疾患を有する者等、発症することにより重症化するリスクが高いと考えられる者（妊婦も含む。）

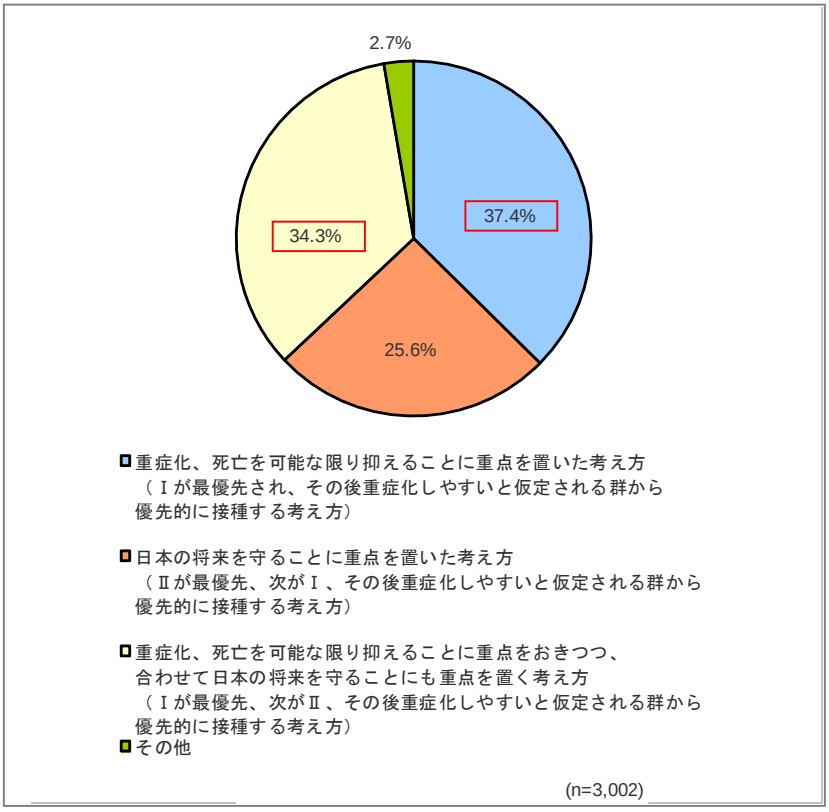


図 13-1　予防接種の優先順位の付け方

＜年代別＞にみると、『20 代』『30 代』では、他の年代に比べて「日本の将来を守ることに重点を置いた考え方」の割合が高い。（図 13-2）

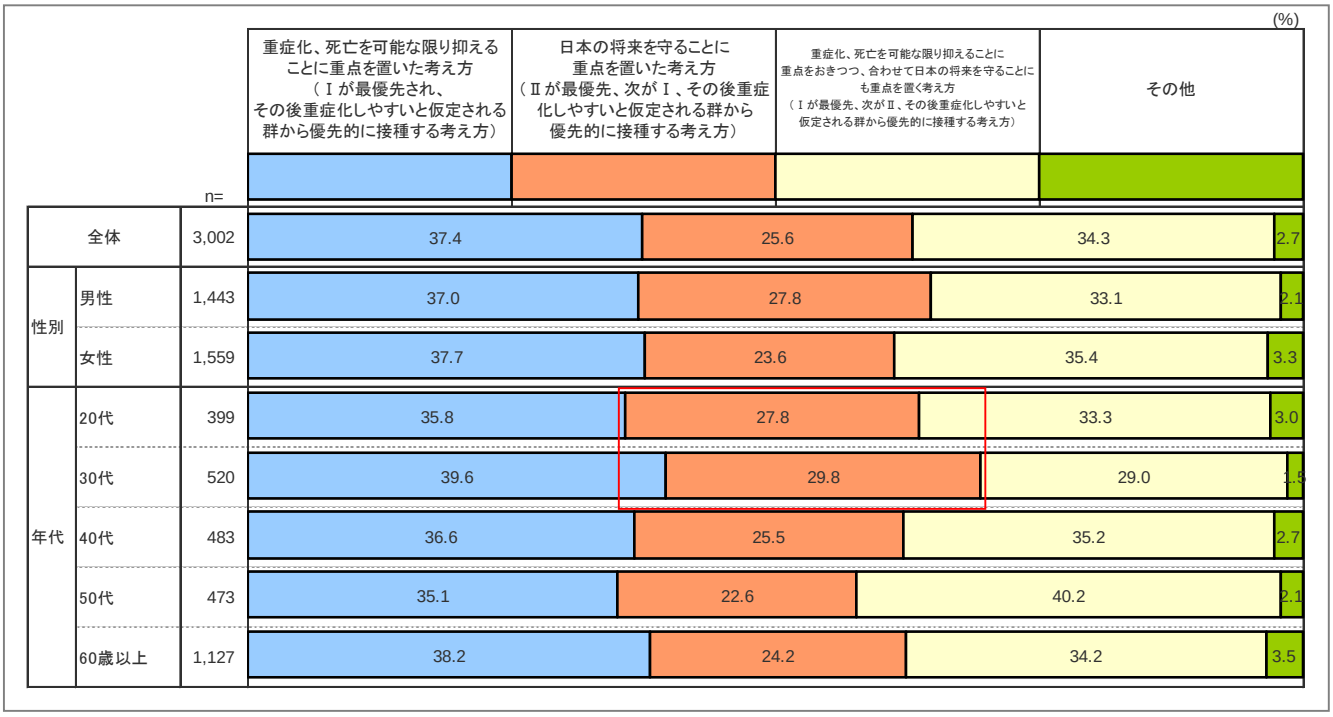


図 13-2　予防接種の優先順位の付け方
（性別・年代別）

＜保育所、学童クラブ別＞にみると、『保育所・学童クラブに子供を預けている』の中は「重症化、死亡を可能な限り抑えることに重点を置いた考え方」（41.8%）、『保育所・学童クラブに子供を預けていない』の中では「日本の将来を守ることに重点を置いた考え方」（32.8%）の割合が最も高い。（図 13-3）

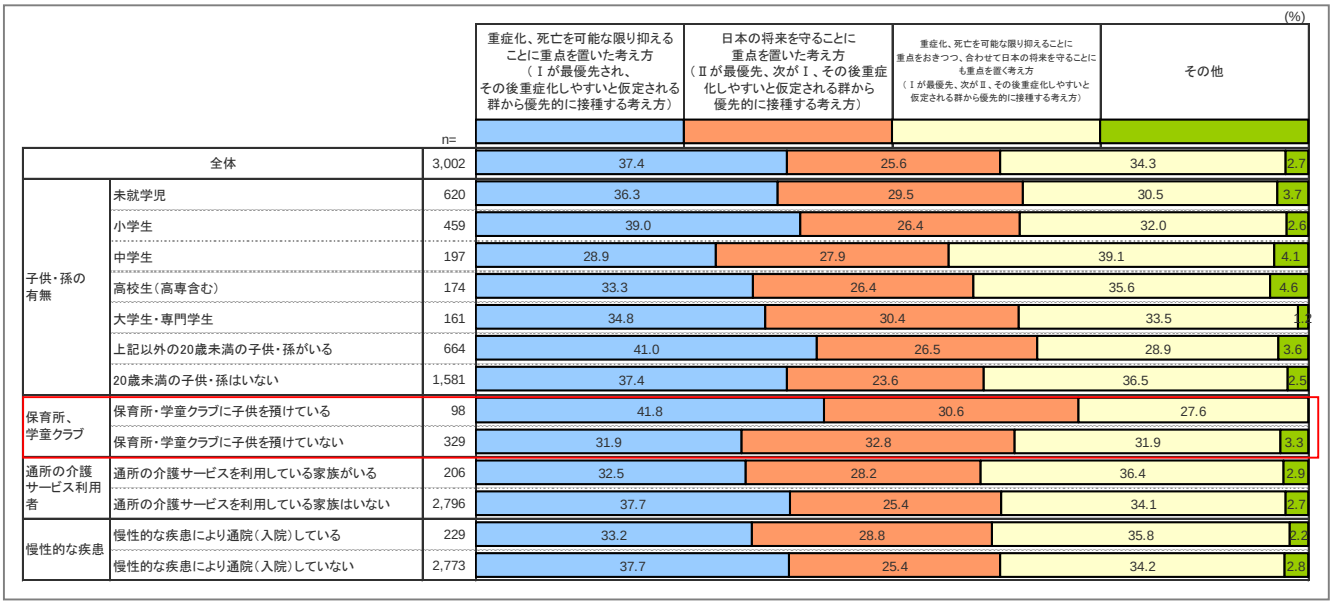


図 13-3　予防接種の優先順位の付け方

（子供・孫の有無別、保育所、学童クラブ別、通所の介護サービス利用者別、慢性的な疾患別）